



参考資料



PEPNet-Japan

Postsecondary Education Programs Network of Japan

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク

—聴覚障害学生支援の明日を切り拓く

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）は、2004年筑波技術大学の呼びかけにより結成されたネットワークです*。事務局は、筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターに置かれており、聴覚障害学生を受け入れ、積極的に支援を行っている連携大学・機関とともに活動を続けています。



※設立当初は、日本財団の助成によるPEN-International（聴覚障害者のための国際大学連合）の支援を受け、発足しました。現在は、筑波技術大学の実施する「聴覚障害学生支援・大学間コラボレーションスキーム構築事業」内で運営されています。



本事業の目的は、全国の聴覚障害学生が在籍する大学および関係諸機関間のネットワークを形成し、高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生への支援体制確立を図ることです。支援にまつわる情報や実践の蓄積と、全国の大学・機関に向けた発信を目指して活動を行っています。

こんな活動をしています

日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム



PEPNet-Japan の活動成果を広く発信するとともに、全国の大学の支援実践について情報交換をすることを目的に、毎年1回シンポジウムを開催しています。

聴覚障害学生支援コーディネータ研修会



聴覚障害学生支援に関わる知識・スキル向上と、相互のネットワーク形成を目的に、各大学のコーディネータを対象とした研修会を開催しています。

聴覚障害学生エンパワメント研修会



聴覚障害学生のエンパワメントに関わるノウハウの蓄積と共有を目的に、実際に聴覚障害学生を対象としたモデル研修会を開催しています。

メーリングリストの運営

聴覚障害学生支援に関わる方々の情報共有とディスカッションのため、メーリングリストを開設し、運営しています。

Web による情報発信

作成した教材をはじめ、聴覚障害学生支援に関わる多彩な情報をホームページ上で発信しています。



運営委員会の開催

連携大学・機関から選出された委員により構成された運営委員会を開催し、ネットワークの活動方針や事業計画を協議しています。



各種教材の作成・配布

Access! 聴覚障害学生支援 DVD シリーズをはじめとする多様な教材を作成し、全国の大学・機関関係者に広く配布しています。



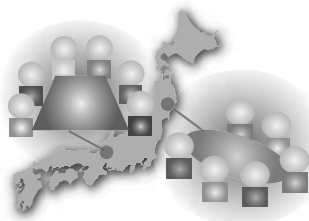
諸外国視察調査

各国における聴覚障害学生支援の状況を学ぶため、アメリカをはじめとした諸外国視察を行っています。この成果は、報告書等の形で広く発信しています。



現在の取り組み

地域ネットワークの形成支援



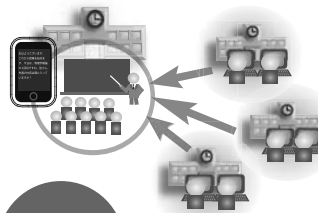
各種研修会の開催等を通して地域ごとの大学間ネットワーク形成を後押しするとともに、各地域における大学の支援状況について情報収集を進めています。

モデル事例の構築と成果発信



これまで支援が困難であった分野を取り上げ、大学が協力して集中的に知識技術を注入することで、新たな支援事例の創出を図ろうとしています。

遠隔情報保障支援ネットワークの構築



東日本大震災における東北地区大学支援プロジェクトの経験をベースに、大学が相互に協力して遠隔地から授業支援を提供する体制構築を進めています。

TOPICS

東北地区大学支援プロジェクト



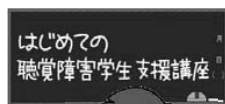
2011年に発生した東日本大震災の際には、宮城県内の連携大学・機関の要請を受け、被災地域の聴覚障害学生の安否確認等に協力しました。また授業開始後は、被災地の大学で学ぶ聴覚障害学生に対して、全国の連携大学・機関から遠隔でパソコンノートテイクの提供を行う試みを実施しました。この取り組みには、全国13大学・機関が参加し、4大学で学ぶ聴覚障害学生約20名に対して、のべ300コマ程度の支援を提供しました。

これまでの活動成果

はじめての聴覚障害学生支援講座

Web コンテンツ

はじめて聴覚障害学生を受け入れることになったとき、大学側はどんな準備をすればいいのでしょうか？ここでは、学内支援体制を作り上げていく手順を丁寧に解説しています。



実践事例アイディア集

Web コンテンツ

支援者の確保や語学の支援等、支援をする上での工夫を紹介したアイディア集。「こんな時どうしたら?」「他の大学ではどうしているの?」と迷ったときにご覧下さい。



DVD シリーズ「Access! 聴覚障害学生支援」

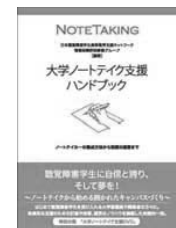
支援に関わる各種トピックスについて解説したDVDシリーズ。支援の手順や意義、聴覚障害学生本人の意識など、さまざまなテーマをドラマやドキュメントで示しています。



大学ノートテイク支援ハンドブック

一般書店でお買い求め下さい

「ノートテイクを養成したいけど、どうすれば?」そんな声にお応えして作成したハンドブック。講座開講の流れからスキルアップの方法まで丁寧に解説しています。



トピック別聴覚障害学生支援ガイド

—PEPNet-Japan TipSheet 集

「聞こえないってどういうこと?」「ノートテイクって何?」など、支援に関わる基本的な知識をまとめた冊子。同じ内容のリーフレットも Web 上で公開しています。



やってみよう! パソコンノートテイク

—パソコンノートテイク導入支援ガイド

「やってみたいけど難しそう」そんなパソコンノートテイクに対するイメージを払拭。必要な機器から接続設定・入力の基礎まで、簡単にわかりやすく解説しています。



一歩進んだ聴覚障害学生支援

一般書店でお買い求め下さい

はじめて聴覚障害学生が入ることになったときの対応方法から、人材確保、支援体制の強化まで、具体的な事例やノウハウを盛り込んでまとめたマニュアルです。



やってみよう! 連係入力

—パソコンノートテイクスキルアップ! 教材集

パソコンノートテイクに必要な連係入力を習得するための教材集。各種練習方法を紹介しているほか、自宅で連係入力の練習ができるソフトウェアも付属しています。



大学での手話通訳ガイドブック —聴覚障害学生のニーズに応えよう！

聴覚障害学生が大学で望む手話通訳とは何かを、座談会や通訳事例を通して説明した解説書。通訳映像を見ながら具体的なニーズについて学ぶことができます。



聴覚障害学生のエンパワメント —モデル研修会報告書

「自ら周囲の人々に働きかけ、必要な支援を生み出す」そんな力を育てていくために、必要なノウハウをまとめた冊子。2011年に実施した研修会を元に作成しています。



支援技術導入リーフレット

ITを活用した支援技術のノウハウをコンパクトに収録したリーフレット。遠隔情報保障に関する技術やビデオ教材への字幕挿入など、5テーマを公開しています。



障害学生支援担当者の職務内容・専門性に関する実態調査報告書

2011年度に実施した全国調査報告書。全国の大学で障害学生支援を担当している方々の勤務実態や職務の内容、専門的知識・スキルの習得状況等を明らかにしています。



音声認識によるリアルタイム字幕作成システム構築マニュアル

音声認識を活用した情報保障のためのマニュアル。復唱者・修正者を介し、字幕を送信する技術について紹介しています。パソコンノートテイクの次のステップをご覧ください。



東北地区大学支援プロジェクト報告書

東日本大震災の発生後、東北地区の大学が学内の支援体制を取り戻すまでの間、遠隔地からパソコンノートテイクを提供する試みを実施しました。本冊子はこの報告書です。



聴覚障害学生サポートネットワークの構築をめざして —アメリカ視察報告書

PEPNet-Japan がこれまでに実施してきたアメリカ視察の報告集。第1～3回視察の結果をまとめた総集編と、個別のトピックに焦点をあてた特別編を発行しています。



その他、ホームページをご覧ください

この他、PEPNet-Japan ホームページでは聴覚障害学生の支援に役立つコンテンツを多数公開しています。
・聴覚障害学生支援 FAQ
・各種研修会報告書 など

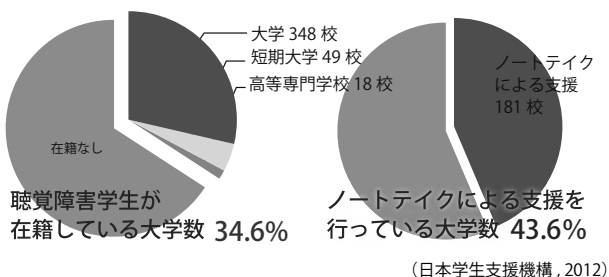
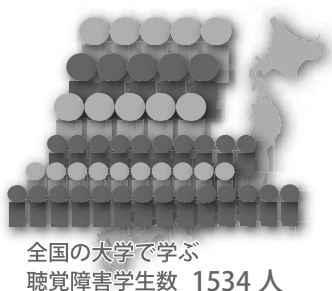


www.PEPNet-J.org

聴覚障害学生支援の現状

聴覚障害学生の在籍状況

現在、全国の高等教育機関（以下、大学）には1500人以上の聴覚障害学生が在籍しています。しかし、彼に対して必要なノートテイクなどの支援を提供できている大学は、半数以下に過ぎません。



聴覚障害学生に対する支援



ノートテイク 授業中の教員の説明や音情報を文字で書いて伝える方法で、2～3名の支援者が交代でサポートを行います。



パソコンノートテイク ノートテイクと同様に音情報をパソコンで入力していく方法です。専用ソフトを用いることで、複数の入力者が協力して情報を伝えることができます。



手話通訳 聞こえてくる音情報を手話で伝えていく方法です。ゼミなどで利用されることが多く、外部団体から派遣を受ける例もあります。

聴覚障害学生支援の展望

文部科学省の動き

平成18年12月、国連で「障害者の権利に関する条約」が採択され、日本国内でも批准に向けた取り組みが進められています。この流れを受け、文部科学省では平成24年6月「障がいのある学生の修学支援に関する検討会」を立ち上げ、障害学生支援の方向性について検討を重ねてきました。その報告が平成24年12月に『障がいのある学生の修学支援に関する検討会』報告（第一次まとめ）として公開されています。ここでは「障害のある学生が障害を理由に修学を断念することがないように、修学機会を確保する」という基本方針が明確に示されています。

障害者差別解消法の成立

平成25年6月「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が可決・成立しました。平成28年4月の施行に向け、今後ガイドライン等の具体的な検討がなされることとなりますが、この法律が施行されると、国公立大学には障害学生への合理的配慮提供に関する法的義務が、私立大学には努力義務が課せられる見込みとなっています。

障害学生への合理的配慮提供



〔現時点での見込み。詳細は今後の審議により決定。〕

いよいよ各大学が「覚悟」を持って障害学生支援に取り組まなければならない時期にやってきたと言えます。すべての学生が実りある学生生活を送れるよう、ともに取り組みを続けていきましょう！

連携大学・機関

PEPNet-Japanの連携大学・機関とは、学内で聴覚障害学生支援を積極的に実施するとともに、全国的な支援体制の向上に貢献が可能な大学・機関の集まりで、2013年8月1日現在、22大学・機関が加入しています。加入には、聴覚障害学生支援を実施している又は実施する体制にある大学・機関で、「聴覚障害学生支援に関する組織的な取り組みがあること」などの項目を満たしていることが条件となっています。

群馬大学



全学的な支援体制と障害の専門教員との協働の下、手話通訳技術をもつ職員と聴覚障害当事者の職員が支援技術の講習、コーディネートなどを行っています。定期的にフォローアップを行い、改善につなげています。
(担当：障害学生サポートルーム)

札幌学院大学



聴覚障がい学生と支援学生、教職員の約100名が協力して支援技術や手話学習、啓発活動に取り組んでいます。2名の職員(兼務)も学生の相談や活動の対応をしています。支援はノートテイクとPCテイクが主です。
(担当：バリアフリー委員会)

東京大学



バリアフリー支援室では専門知識を有するスタッフが常駐し、障害のある学生・教職員への支援を行っています。聴覚障害のある学生へは、PCテイク等の情報保障や、補聴システムによる聴覚補償等を実施しています。
(担当：バリアフリー支援室)

宮城教育大学



利用学生のニーズに応じて手書きやPCを主としたノートテイクを行い、音声認識通訳等新たな情報保障にも積極的に取り組んでいます。また、学生が中心となり練習会や情報交換会を実施し、支援体制を作っています。
(担当：しょうがい学生支援室)

早稲田大学



障がい学生支援室と学部・研究科が連携して、ノートテイク、PC通訳、手話通訳など、修学に必要な支援を行っています。障がいに関する授業の実施などの理解啓発、新しい支援技術の導入にも取り組んでいます。
(担当：障がい学生支援室)

みやぎDSC



宮城を拠点に主に東北地方の高校、大学等の聞こえない・聞こえにくい学生・支援学生・教職員への支援を行っています。活動の柱は、「相談事業」「普及・啓発事業」「養成・研修事業」「ネットワーキング事業」です。
(担当：事務局)

日本社会事業大学



聴覚障害当事者の社会福祉従事者の育成を図っています。支援にあたっては学生の自己擁護力と支援活用力の向上を最も大切にしています。支援学生も未来のソーシャルワーカーとして役立つ経験をしています。
(担当：聴覚障害者大学教育支援プロジェクト)

関東聴覚障害学生サポートセンター



情報保障体制構築の支援に加え聴覚障害学生の心理面での相談機能の充実を目指しています。大学関係者だけでなく、ろう学校や通訳者からの相談・お問い合わせにも対応しています。
(<http://kantou-saposen.main.jp/index.html>)

日本福祉大学



障害学生支援センターでは、障害学生の生活からボランティア活動支援まで、様々な相談に応じています。また、学習支援の方法は、障害学生・支援学生・教職員が共に考え、より良い環境の実現を目指しています。
(担当：障害学生支援センター)

放送大学 ICT活用・遠隔教育センター



放送大学では、現在 68 科目の授業番組（放送時間の 34%）が字幕化されています。今後はインターネット配信の授業番組の字幕化、ラジオのテキスト化に取り組んで参ります。
(担当：ICT活用・遠隔教育センター)

金沢大学



要支援聴覚障害学生は現在在籍しませんが、視覚（視野狭窄）障害学生に対し、ノートテイクを実施しています。また、発達障害について『サポートブック：多様なニーズに対応するために』を全学に配布しています。
(担当：学生部学生支援課)

静岡福祉大学



本学では、障害の有無に関わらず共に社会参加できる教育環境の実現を目指しています。これにより、学生が卒業時に、自ら必要な支援を第三者に説明し、主体的に最適な環境を作り上げられるようにしています。
(担当：障害学生支援室)

同志社大学



障害のある学生が、他の学生と等しい条件で学生生活を送れるよう、約 200 名のスタッフが講義保障（PC 通訳・NT）を中心に様々な支援を行っています。他大学や、学外支援団体のサポートにもあたっています。
(担当：障がい学生支援室)

愛知教育大学



愛知教育大学では、学生が中心となって、パソコンテイクを主に支援を行っています。週 2 回の昼休みの練習会に加え、遠隔システムを利用した連係練習などを行って、よりよい支援を目指しています。
(担当：障害学生支援WG)

立命館大学



立命館大学では、障害学生を含むインクルーシブな大学づくりに向けた支援を行っています。支援室の下に組織されたサポートスタッフが授業支援や支援スキル養成講座や啓発イベントの企画・実施を行っています。
(担当：障害学生支援室)

大阪教育大学



平成 24 年度から「障がい学生修学支援ルーム」を設置し、教員・事務スタッフが相談・支援にあたっています。支援学生と連携し手話通訳・ノートテイク・パソコンテイク・要約筆記等ニーズに応じた支援を行っています。

(担当:障がい学生修学支援ルーム)

愛媛大学



愛媛大学では、障がいのある学生を支援するために、「障がい者修学支援委員会」「バリアフリー推進室」「障害学生支援ボランティア」を設置し、学生が主体となって障がいのある学生支援に取り組んでいます。

(担当:バリアフリー推進室)

関西学院大学



総合支援センターは、障がい学生支援を全学的に行う相談窓口としての機能を持ち、3名のコーディネーターが学部と連携し支援にあたっています。ノートテイク、映像の字幕付け、手話通訳者派遣等を実施しています。

(担当:キャンパス自立支援室)

福岡教育大学



障害のある学生は支援学生とともに支援方法を考え、支援システムを検討・構築する活動を行っています。また、各種講習・研修会を定期的に行い、学内外へ情報を発信しています。他大学生との連携も行っています。

(担当:障害学生支援室)

広島大学



各部署の支援委員、教職員、これをサポートする専任教職員5名、ALインターン約20名、実習生約40名が、相談・支援にあたっています。また、最新のICTを活用した多彩な支援に、積極的に取り組んでいます。

(担当:アクセシビリティセンター)

筑波技術大学



聴覚・視覚障害学生を対象とした日本で唯一の高等教育機関で、200名以上の聴覚障害学生が手話や文字・聴覚などを活用し学習しています。障害者の高等教育を進める全国共同利用拠点にも指定されています。

(担当:障害者高等教育研究支援センター)

四国学院大学



CHCセンターは、本学に在籍するマイノリティ学生の学生生活をサポートしていくための場所です。聴覚障害学生に対しては主にノートテイク・パソコン要約筆記・手話通訳を実施しています。

(担当:CHCセンター)



Twitter (ツイッター) はじめました!

Twitterとはパソコンや携帯電話などを使い、140文字以内のメッセージを発信できるWebサービスです。PEPNet-Japanでは、公式アカウントの運用をはじめ、PEPNet-Japanで現在取り組んでいる事業の様子やイベントのお知らせ、成果物のご案内をしています。みなさんのフォローお待ちしております。

PEPNet-Japan公式アカウント:@PEPNet_Japan
(右のQRコードからフォローできます)



運営組織

代表

村上芳則 筑波技術大学・学長



運営委員

- 高橋信雄 愛媛大学教育学部・教授
- 新國三千代 札幌学院大学バリアフリー委員会・教授
- 松崎 丈 宮城教育大学教育学部・准教授
- 高橋明美 みやぎ DSC・スタッフ
- 斉藤くるみ 日本社会事業大学・教授
- 倉谷慶子 関東聴覚障害学生サポートセンター・コーディネーター
- 廣瀬洋子 放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター・教授
- 金澤貴之 群馬大学教育学部・教授
- 高橋岳之 愛知教育大学教育学部・准教授
- 藤井克美 日本福祉大学社会福祉学部・教授
- 鈴木良始 同志社大学学生支援センター・所長
- 木立英行 大阪教育大学障がい学生修学支援ルーム・ルーム長
- 松岡克尚 関西学院大学人間福祉学部・教授
- 青野 透 金沢大学大学教育開発・支援センター・教授
- 林田真志 広島大学大学院教育学研究科・准教授
- 太田富雄 福岡教育大学附属特別支援教育センター・教授
- 石原保志 筑波技術大学・副学長
- 須藤正彦 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・センター長
- 白澤麻弓 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授
- 三好茂樹 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授

(○は運営委員長)



**We are the one s
who make a difference**

事務局

事務局員

- 白澤麻弓 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授
- 小林正幸 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授
- 佐藤正幸 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授
- 石塚陽二 筑波技術大学聴覚障害系支援課・課長
- 三好茂樹 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授
- 河野純大 筑波技術大学産業技術学部産業情報学科・准教授

(○は事務局長)

PEPNet-Japan 連携大学・機関

- 札幌学院大学
- 宮城教育大学
- みやぎ DSC
- 群馬大学
- 東京大学
- 早稲田大学
- 日本社会事業大学
- 関東聴覚障害学生サポートセンター
- 放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター
- 静岡福祉大学
- 愛知教育大学
- 日本福祉大学
- 金沢大学
- 同志社大学
- 立命館大学
- 大阪教育大学
- 関西学院大学
- 広島大学
- 四国学院大学
- 愛媛大学
- 福岡教育大学
- 筑波技術大学



お問い合わせ先

PEPNet-Japan

検索

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15
 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター
 URL <http://www.pepnet-j.org>
 TEL/FAX 029-858-9438
 E-mail pepj-info@pepnet-j.org
 担当：白澤麻弓(筑波技術大学 准教授)

PEPNet-Japan
 国立大学法人
筑波技術大学

本事業は、筑波技術大学「聴覚障害学生支援・大学間コラボレーションスキーム構築事業」の活動の一部です。

日本聴覚障害学生 高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 連携大学・機関活動紹介

- 札幌学院大学
- 宮城教育大学
- みやぎDSC
- 東京大学
- 早稲田大学
- 日本社会事業大学
- 関東聴覚障害学生サポートセンター
- 放送大学 ICT活用・遠隔教育センター
- 群馬大学
- 静岡福祉大学
- 金沢大学
- 愛知教育大学
- 日本福祉大学
- 同志社大学
- 立命館大学
- 大阪教育大学
- 関西学院大学
- 四国学院大学
- 広島大学
- 愛媛大学
- 福岡教育大学
- 筑波技術大学



札幌学院大学

●支援組織名称 札幌学院大学バリアフリー委員会
<http://www.sgu.ac.jp/bfc/>

●スタッフ 教職員 10名、学生スタッフ 80名

聴覚障害生	7名	学部生	7名
		院生	0名
視覚障害学生	2名		
肢体障害学生	5名		

設置形態	私立大学
学生数	3,475人
所在地	〒069-8555 北海道江別市文京台11番地

学内支援体制

2001年教職員および学生によりバリアフリー委員会発足。2002年度から障がい学生支援に関わる諸経費を大学予算で対応。現在、全学的組織である「障がい学生支援連絡会議」の下にバリアフリー委員会が置かれている。

ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記 (IPtalk 使用)		
利用者数	6名	学部生	6名
		院生	0名
テイカー数	12年度実数：前期 24名、後期 25名		
サービス提供時間数	12年度前期→46科目×15回 12年度後期→44科目×15回		
報酬および経費	770円/時間		
募集方法	掲示板、HPに募集ポスターを掲示、情報ポータルで募集のお知らせ、新年度のガイダンス時にバリアフリー委員会の学生達が手分けして全学部学科に募集説明、活動説明会の開催。		
コーディネート方法	バリアフリー委員会テイク統括部が行う。		
養成方法	年間を通して月2回程度（新学期は毎週）テイク講習会を実施。先輩学生が講師を務める。被テイカーも助言者として参加する。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	先輩学生が後輩学生を育てながら相互に育ち合っている。		

手話通訳

利用者数	12年度 前期 2名 後期 2名	学部生	2名
		院生	0名
手話通訳者数	12年度実数：前期 2名、後期 1名		
サービス提供時間数	テイクと併用：前後期各 1科目		
報酬および経費	770円/時間		
募集方法	手話通訳のみの募集はしていない。		
コーディネート方法	バリアフリー委員会テイク統括部が聴覚障がい学生の希望を聞いて、配置する。これまではゼミや演習/実習科目で要望があった。		
養成方法	手話勉強会を週1回実施。		
本学手話通訳の特徴	テイクの補助手段およびテイカーと被テイカーとのコミュニケーション手段として使用。		

Check!

学生・教職員の協働により委員会を運営している。障がいを抱える学生と支援学生が主体的に企画・運営を担う。

みんなでしゃべり場

札幌学院大学バリアフリー委員会では、情報保障のスキルを高めるテイク講習会や手話勉強会・手話合宿の他に、障がい学生支援について様々な角度から学ぶ取り組みも学生が中心になって行っています。学外から講師を招いて開催する各種講習会や講演会がそうですが、地味ながらも学生たち自身の力を養っているのが、「みんなでしゃべり場」というディスカッションの場です（写真）。



例えば、「聴覚障がい者が困ること、その時私達にできること、設備などの改善」など、授業保障以外のことについても、自分たちの視点で学び合っています。

サービス向上を目指して

ノートとパソコン要約筆記のテイカー養成講座を先輩が講師となって実施している。数名の先輩や被テイカー達も補助者として参加し、後輩のテイクの内容を個別にチェックしたり、助言している。また、先輩達が作成したテキストを引き継いで改訂しながら継続的にテイカー養成の向上を図っている。これらはすべてボランティアである。今後の課題は、テイカーの講師や補助者を育てるプログラムを充実させること、講座運営に携わる学生達への相応の待遇を検討することである。

参考資料

札幌学院大学バリアフリー委員会のホームページ
[\(http://www.sgu.ac.jp/bfc/\)](http://www.sgu.ac.jp/bfc/) に活動内容を掲載。

問い合わせ先 大学：教務課学習支援係
 電話 011-386-8111/FAX011-386-8111
 学生組織：sgu_bfc@sgu.ac.jp

宮城教育大学

設置形態	国立大学法人宮城教育大学
学生数	1642名（学部生1518名、院生124名）
所在地	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地

●支援組織名称 宮城教育大学 しょうがい学生支援室
http://shienshitu.miyakyo-u.ac.jp/

●スタッフ 教職員12名、学生スタッフ162名

聴覚しょうがい学生	13名	学部生	11名
		院生・研究生	2名
視覚しょうがい学生	1名		
肢体不自由学生	2名		
病弱・虚弱学生	1名		

学内支援組織図
支援室——専門部会
室長 1名 聴覚しょうがい部会
(連携担当副学長) 視覚しょうがい部会
副室長 1名 発達しょうがい部会
室員 7名 肢体不自由部会
(専門部会長、関連委員等) 病弱・虚弱部会
職員(コーディネーター)
問い合わせ先
MAIL:Support-Coordinator@ml.miyakyo-u.ac.jp
TEL/FAX:022-214-3651

ノートテイク・パソコンノートテイク・音声認識通訳

利用者数	13名	支援者数	162名 (NT162名/PC48名/音声認識9名)
サービス提供時間数	2185コマ (2012年度) <small>講義関係のみ</small>	報酬および経費	900円/時間 (教育実習、校外活動のみ)
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示、募集用リーフレット配布、学内行事におけるPR映像の放映、新入生への広報(入学時資料に募集リーフレットを同封、入学式の式典前に文字通訳のスクリーンを利用してPR映像を放映)、新入生必修講義における聴覚しょうがい学生・支援学生からのPR活動。		
コーディネート方法	コーディネーター3名(教務補佐員)が連絡調整する。聴覚しょうがい学生及び学生ノートテイクの助言・指導を担当する経験の長い学生と連携を図って適切なコーディネートを行っている。		
養成方法	学生運営スタッフを中心に、初心者対象、経験者対象の研修会を毎月2回ほど実施。		
文字通訳の取組の特徴	本学のしょうがい学生支援を、特別支援教育におけるしょうがい児・者支援の実践に必要な知識と実行力の養成として位置づけて活動している点。通常の講義の情報保障は学生の手によって全てがボランティアで行われている。		

手話通訳

聴覚補償

字幕挿入

関係者数	利用者数 10名 (内教員1名)	利用者数 4名	作業者数 24名
サービス提供時間数	オリエンテーション、卒業論文・修士論文発表会等単発的支援のみ	88コマ (2012年度) <small>講義関係のみ</small>	2009年度より、講義において使用する映像物への字幕挿入を開始 45本:1636分(2012年度)
報酬および経費	外部派遣機関の規定による	なし	900円/15分映像
方法	募集方法 みやぎ通訳派遣センターに依頼。できる限り本学への派遣実績のある通訳者を派遣するよう依頼。	補償方法 ①赤外線補聴システム 赤外線ラジエーター《リオン》 ②電波を使った補聴システム パナガイド《Panasonic》 Inspiro《PHONAK》	作成方法 学内の登録作業員に対して、文字おこしの作業を依頼。その後映像物への字幕挿入を行っている
特徴	養成方法 担当教員と一緒に事前検討会及び事後反省会。大学で使用する専門用語の手話DVDを作成し、大学レベルの手話通訳者の養成を行っている。	補償方法の選択 講義室の状況、講義の形態、個々の使用している補聴器の種類などによって補償を行う。集団討論に対応可能なシステムも構築した。	字幕映像への対応 専任の作業スタッフ1名を置き、一定のルールにのっとった字幕映像を作成している。



Check!

多くの先輩・仲間と出会い
語り合いながら自らを高める4年間

本学は、特別支援教育全領域をカバーできる専門教員が揃っており、その専門的人的資源を最大限に活用するために「しょうがい学生支援室」を設立して、しょうがい学生支援体制の充実化を図っています。また、本学は教員養成大学であり、しょうがい学生支援にかかわることで備わるスキルや知識は、卒後教壇に立った時に児童・生徒に対して発揮される力となります。しょうがいの有無にとられない主体的な学びの場となっています。

また、情報保障のスキルを高める研修会の他に、学生が企画・運営を行う練習会や意見交換会があります。講義中情報保障が困難になった場面を共有し、よりよい情報保障について学び合っています。

みやぎDSC

(Deaf Support[Students] Center)

形態	任意団体
所在地	〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1丁目
	17-1-116 高橋方
	FAX 022-233-9571

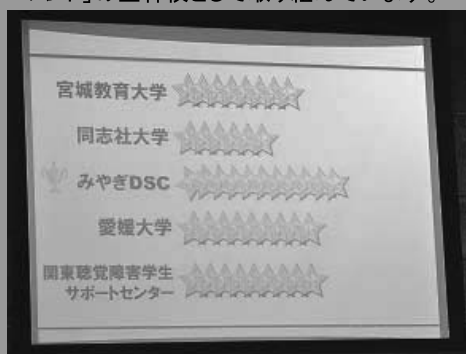
●創設 2003年4月1日 ●代表 松崎 文 ●URL http://blogs.yahoo.co.jp/jyohosaposen	運営スタッフ 11名 (兼務あり)	代表	1名
		事務局	2名
		相談事業	3名
		普及・啓発事業	3名
		養成・研修事業	4名
		ネットワーキング事業	3名

事業内容・実績

相談事業	教職員及び聴覚障害学生対象の相談及びその保護者、関係者等の総合的な相談を行う。	養成・研修事業	聴覚障害学生・支援者・教職員それぞれの対象者に合わせた養成・研修を行う。
普及・啓発事業	教育機関や地域に向けた聴覚障害学生支援に関わる広報活動及び啓発行事の開催。対象者の幅を広げ、中高生・保護者等広範囲を対象とする。	ネットワーキング事業	聴覚障害学生支援関係の団体との情報交換・課題の共有・ノウハウの提供を行う。

みやぎDSCの活動 (2012年度)	<ol style="list-style-type: none"> 相談事業 <ul style="list-style-type: none"> 相談 17件 養成・研修事業 <ul style="list-style-type: none"> 大学へのノートテイク養成講座 2回 (受講人数 述べ32名) 普及・啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> 第63回東北ろうあ者大会・第39回東北地区手話通訳問題研究大会 障害学生修学支援ブロック別地域連携シンポジウム(東北地区) エンパワメント研修会(主催:宮城教育大学・PEPNet-Japan・みやぎDSC) ネットワーキング事業 <ul style="list-style-type: none"> PEPNet-Japan主催の「新たなニーズに対するモデル事例構築事業」に本会の『情報保障者における主体性の醸成を目指したマネジメント』が採択された。
-----------------------	--

PEPNet-Japan モデル事例構築事業「情報保障者における主体性の醸成を目指したマネジメント」の主幹校として取り組んでいます。



問い合わせ先：所在地参照

ありがとう

みやぎDSC10周年

2013年度、みやぎDSCは創立10周年を迎えることになりました。これもひとえに皆様方のご支援、ご厚情の賜と心よりお礼申し上げます。

10年間で、12校の大学・高校等の支援をしてきました。

スタッフの声

大学生の時に支援してもらい、現在は運営スタッフとしてみやぎDSCに関われることが嬉しいです。

東京大学

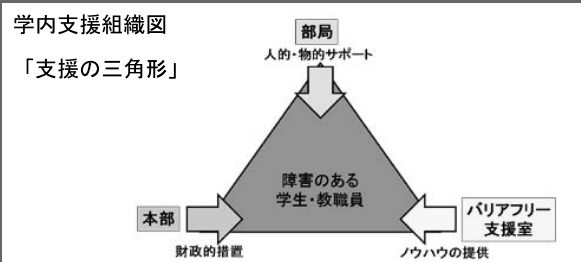
●支援組織名称 バリアフリー支援室

●スタッフ 職員 7名

聴覚障害学生		学部生	
		院生	
視覚障害学生			
肢体障害学生			

※学生在籍数の詳細については非公表とさせていただきます。

設置形態	国立大学
学生数	約 28,000 人
所在地	〒113-8654 文京区本郷 7-3-1



ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	☑ノートテイク☑パソコンテイク		
利用者数	若干名	学部生	
		院生	
ノートテイク数	120 名		
サービス提供時間数	年間約 4,700 時間程度		
報酬および経費	925 円/時間 (支援室運営経費)		
募集方法	掲示板への募集ポスター掲示、学部専用 HP での講座開催案内、新入生ガイダンスでの支援室紹介 など		
コーディネート方法	学期開始時に学生、所属学部等担当者との面談を行い、ニーズを確認したうえで授業ごとのサポート内容を検討・調整する。授業開始後も随時サポート内容の確認・再調整を行う。		
養成方法	ノートテイク講座・パソコンテイク講座 (各 90 分) を学期開始時に複数回実施。個別講座やフォローアップ研修、学生のニーズにあわせた追加講座も随時行う。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	学生の履修科目への派遣だけでなく、学内で行われる研究会や各種研修等の場にも、教員・研究者からの依頼を受けて学生テイクを派遣する場合がある。		

その他の支援

機器の貸出・補聴相談への対応	F M補聴システムなどの支援機器貸出を行っている。補聴相談については、学生からの要望を受け、学内外の補聴相談専門家を紹介する体制をとっている。
文字起こし・字幕挿入	映像教材の文字起こし・字幕挿入をサービスとして提供している。
シンポジウム等での情報保障支援	学内で開催される学会・シンポジウム等での情報保障全般について、コーディネーターが相談に応じている。主催者 (学内関係者) から依頼や相談があった場合は、内容を確認したうえで、適任の手話通訳者を紹介する他、情報保障依頼にあたっての具体的な対応についても、アドバイスを行う。
入学式・卒業式での情報保障	聴覚障害学生の有無にかかわらず、手話通訳と、PC文字通訳を実施。

Check! 学部等との連携体制「支援の三角形」
学部等と支援室の連携によるきめ細かい支援

意見交換会・交流会の開催

東京大学バリアフリー推進のための学生ネットワーク「B. F. mate」を中心に、障害のある学生とサポートスタッフによる全学のバリアフリーについての意見交換がなされている。

また、バリアフリー支援室 (本郷支所・駒場支所) では月 2 回、学生・教職員を対象に、手話に気軽に親んでもらうことを目的とした「手話でしゃべらんち」を開催。学内で働く聴覚障害職員も複数参加し、手話によるミニ講演や質問コーナーなどを通じて交流を深めている。



バリアフリーの東京大学を目指して

東京大学では、東京大学憲章において、バリアフリーの人的・物的支援の整備を行うことを責務としている。また、多様な人々が共に活動する社会こそが、本来の豊かで活力ある社会なのだという認識のもと、障害の有無を含めた様々な属性の人々がどうキャンパス空間の構築を目指している。

参考資料

バリアフリー支援室ホームページ

<http://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/>

東京大学バリアフリー推進のための学生ネットワーク「B. F. mate」

<http://www40.atpages.jp/todaibARRIERfree/index.html>

問い合わせ先

E-mail : spds-staff@dso.adm.u-tokyo.ac.jp

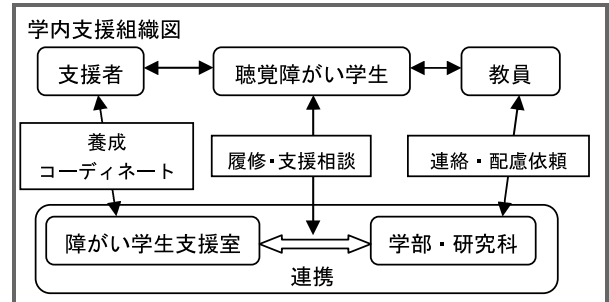
早稲田大学

●支援組織名称 障がい学生支援室
<http://www.waseda.jp/student/shienschitsu/index.html>

●スタッフ 職員 4名 (うち手話通訳士 1名)

聴覚障害学生	16名	学部生	12名
		院生	4名
視覚障害学生	4名 (うち、聴覚障害との重複 1名)		
肢体障害学生	6名		

設置形態	私立大学
学生数	約 54,000人 (2012年度)
所在地	〒169-8050 東京都新宿区戸塚町 1-104



ノートテイク・パソコン通訳

提供しているサービス	<input type="checkbox"/> ノートテイク (NT) <input type="checkbox"/> パソコン通訳 (PC) <input type="checkbox"/> 記録 (1名での筆記) <input type="checkbox"/> 教員への配慮依頼文書配付		
利用者数	15名	学部生	11名
		院生	4名
ノートテイク数	241名 (2013年6月現在登録者)		
サービス提供時間数	NT、PC、記録=週 103コマ (2013年度前期) その他、入学式、卒業式、大学主催行事での情報保障を実施		
報酬および経費	1200円/1コマ		
募集方法	<input checked="" type="checkbox"/> 学内ポータルサイト、掲示板での告知 <input checked="" type="checkbox"/> 利用学生の所属学部・研究科の学生へのメール告知 <input checked="" type="checkbox"/> 支援室の web サイト等での告知 <input checked="" type="checkbox"/> 支援室が関係する授業での告知		
コーディネート方法	聴覚障がい学生の申請に基づき、障がい学生支援室に登録している支援者を支援室がコーディネート		
養成方法	支援室職員が講師となり、NT、PCの講座を、前後期開始時に行う他、学生の希望に合わせて随時実施		
本学ノートテイク・パソコン通訳の特徴	利用学生の受講スタイルや授業形態に応じて、方法を柔軟に調整 (PC通訳の表示機をタブレットにする、1名での支援 (記録) にする、など)		

手話通訳

利用者数	4名	学部生	1名
		院生	3名
手話通訳者数	17名 (手話通訳士 (学外) 14名、学生 3名)		
サービス提供時間数	週 1コマ (2013年度前期) その他、授業でのロールプレイ、施設見学等の際に手話通訳を派遣		
報酬および経費	3600円/1コマ (手話通訳士 (学外)) (学生はNT・PCと同額)		
募集方法	支援室職員の人脈による支援者登録依頼あるいは登録通訳者の紹介		
コーディネート方法	聴覚障がい学生の申請に基づき、障がい学生支援室に登録している手話通訳者に依頼		
本学手話通訳の特徴	手話通訳士資格を持つ職員によるコーディネート		

文字起こし・字幕挿入

サービス提供時間数	オンデマンド 7科目 (2013年度前期)
報酬および経費	媒体の長さ・内容による
支援方法	学内の授業システム (あるいは字幕挿入システム) にコンテンツをアップロードし、支援学生が作業を行う

Check! 学内各組織の連携と、多様な情報保障手段の提供による質の高い支援

すべての学生が「同じ」環境で学ぶために

- 個々の学生に応じた支援
 面談や窓口での普段のやり取りを通じて、聴覚障がい学生のニーズ把握に努め、学生の状況に応じて修学環境を整えている。
- 利用学生が他の学生とともに学べる環境作り
 支援が周囲の学生との間の「壁」にならないよう、利用学生と離れてパソコン通訳をする方法を導入したり、「教員ガイド」の配布、全学オープン科目「障がいの理解と支援」の運営、SNSによる情報発信などの、教職員、学生に向けた啓発の取り組みを行ったりしている。
- 利用学生の主体性、支援学生の意欲を引き出す
 学生と意見交換をしたり、学生が企画を行う機会を設けたりすることで、学生が支援について主体的に考えるように促している。また、希望者の都合に合わせて随時ノートテイクなどの講座開催、個別指導を行い、意欲のある学生が支援に携われるように工夫している。

サービス向上を目指して

支援学生の専門性が課題となっており、特定の学部・研究科事務所と連携して募集するなどの取り組みを行っている。また、字幕挿入システムなどの新しい技術の導入にも取り組んでいる。

参考資料

障がい学生支援室パンフレット
 障がい学生支援室 Twitter アカウント: @wasedau_dssso
 障がい学生支援室 Facebook ページ:
<http://www.facebook.com/WasedaU.DSSO>

問い合わせ先

障がい学生支援室 TEL: 03-5286-3747
 mail: shienschitsu@list.waseda.jp

日本社会事業大学

- 支援組織名称 聴覚障害学生支援プロジェクト室
http://deafhohproject.com/
- スタッフ 教員1名、その他6名、支援学生90名

聴覚障害学生	11名（内訳）学部6名、通信3名、大学院2名
視覚障害学生	2名
肢体障害学生	6名

ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	ノートテイク、パソコンテイク、メモテイク、遠隔通訳、文字起こしなど、要望に応じて対応		
利用者数	7名	学部生 6名（通信3名）	院生 1名
ノートテイク者数	65名（NT 50名/PC 23名）		
サービス提供時間数	週8～10コマ （手話通訳との併用等を含む）		
報酬および経費	850円/時間		
募集方法	学生支援課が全学的に募集。支援者の友人や口コミでも多くの学生が登録。また、ウェブページ上で募集を掲示し、学生に限らず、学外からも広く支援者を募集している。		
コーディネート方法	聴覚障害学生支援プロジェクト室と支援者から選出した学生コーディネーターを中心に行っている。学生支援者については、こまめに情報共有・打ち合わせをしつつ、学生コーディネーターに連絡・調整を任せている。		
養成方法	支援者として活動を希望する人を対象に研修を実施。状況に応じ、スキルアップのための研修も実施する。小さな練習会を数多く開催している。		
本学ノートテイク・パソコンテイクの特徴	学生が自主的な練習会を多く開催している。また自主練習がいつでもできるように Training Lab を設置しており、オンラインでも練習できるようにシステムを構築中である。		

設置形態	私立大学
学生数	2,750名前後（学部生807名・大学院生141名、通信教育課1798名）
所在地	〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30 http://www.jcsw.ac.jp/

学内支援組織図

2009年10月「聴覚障害者大学教育支援プロジェクト」の立ち上げに伴い、学内の聴覚障害学生支援に関する拠点として「聴覚障害学生支援プロジェクト室」が設置された。現在、聴覚障害学生支援プロジェクト室は社会事業研究所に属し、聴覚障害学生に必要な支援を提供するとともに、教務課・学生支援課・通信教育室・入試広報課等が支援を行う際のアドバイス・リソースを提供している。

手話通訳

利用者数	7名	学部生 6名（通信3名）	院生 1名
手話通訳者数	20名前後（登録制）		
サービス提供時間数	週8～10コマ （ノートテイク、パソコンテイクとの併用を含む）		
報酬および経費	3000～3500円/時間		
募集方法	有資格者を中心に登録いただいている。通訳者同士のネットワークを活用して大学での活動に興味のある方に登録をお願いしている。		
コーディネート方法	聴覚障害学生の要望に応じて適切な支援者を聴覚障害学生支援プロジェクト室が選定し、依頼している。派遣会社・社団法人等も利用している。		
養成方法	大学としての研修等は特になし。聴覚障害学生支援プロジェクト室スタッフが通訳の様子を見て、通訳者と聴覚障害学生のニーズの調整や要望を行うときもあり。		
本学手話通訳の特徴	日本手話、対応手話やその他個別のニーズに対応できるように、バラエティに富んだ多くの通訳者に登録をいただいている。		

Check!

聴覚障害学生を「同じスタートライン」に立たせる支援

聴覚障害者大学教育支援プロジェクト

「ろう・難聴者の高等教育の機会の拡充」を目標に、日本財団の助成により2009年10月にスタートしたプロジェクト。現在は3つのプログラムを行っている。

1. 学内学生支援（聴覚障害学生支援プロジェクト室）
2. 手話による教養大学
聞こえない学生にも、教員との直接対話を通じた深い学び機会を作りたいと設置された科目群。授業は、ろう者の教員・講師によって日本手話を用いて行われる。一般教養科目から、ろう・難聴者に深い関係の深いものまで幅広い科目が設置されており、取得した単位は卒業単位の一部にできる。
3. ろう・難聴高校生の学習塾
ろう・難聴の高校生を対象に大学進学を支援する。ろう・難聴者の講師が手話で教えるクラスと、手話通訳・パソコンテイクがついた主に聴者が担当するクラスがあり、自分のコミュニケーション方法、学力に合ったクラスでの受講が可能である。

同じスタートラインをめざして

同じスタートラインに立ちたい。
そして、そこからは自分の足で歩いていきたい。
そんな聞こえない学生を
わたしたちは入試から卒業までサポートします。

問い合わせ先

日本社会事業大学 聴覚障害学生支援プロジェクト室
URL http://deafhohproject.com
FAX 042-496-3064
E-mail projectd@jcsw.ac.jp

関東聴覚障害学生 サポートセンター

- 創設 1984年（創設当初は関東学生情報保障者派遣委員会）
- URL <http://kantou-saposen.main.jp/>

形態	任意団体
所在地	事務所を持たず、大学での支援コーディネーターや通訳活動、コンサルテーションのノウハウを持ったスタッフのネットワークによって運営。
運営スタッフ	14名

活動内容

聴覚障害学生支援体制構築についてのコンサルテーション

初めて聴覚障害学生を受け入れる大学や、支援の質的向上を目指す大学を対象に、支援制度の構築・拡充のためのコンサルテーションを行い、中長期的な関わりを通して、各大学で基本的なコーディネート、支援ノウハウの蓄積、自前での研修会の実施等が可能となるようサポートしています。

コンサルテーション・企画の一例

- 現状の課題や今後の展望等についてのヒアリング
- 支援制度充実にむけた具体的な取り組み案の提案
- 支援に関する情報提供
- 各種研修会の企画・実施
- 講師斡旋
- 支援担当教職員に対するフォロー・相談対応
- 聴覚障害学生・支援学生からの相談対応、ニーズ聞き取りのサポート
- 支援者のスキル評価
- 授業観察
- 支援制度の振り返り・検証 など



初心者対象ノートテイク
養成研修会



ゼミを想定した研修会

2013年度は、新たに2大学に対してコンサルテーションを行っています。

相談	支援者養成	通訳者の紹介・斡旋	普及・啓発	ネットワーキング
聴覚障害学生や特別支援学校、社会人、保護者等からの相談も受けています。聴覚障害学生からの相談に対しては、在学中に支援サービスを利用した経験のあるろう者スタッフが対応することで、心理面のサポートにも努めています。	ノートテイク・パソコンテイクの養成研修会の企画や講師の派遣をしています。事前打ち合わせ、カリキュラム構成の助言、養成後のフォローアップも含めてサポートし、大学独自で養成が担える体制づくりの支援をしています。	手話通訳者、ノートテイク等者の紹介・斡旋を行っています。また、地域資源の活用などについてもアドバイスを行っています。	「聴覚障害者と高等教育」フォーラムの開催や関連誌への寄稿等を通して、聴覚障害学生支援の必要性や、現状・課題を発信してきました。近年では、企業からの聴覚障害に関する啓発研修や、大学教職員向けのFD研修の依頼も増えてきています。	学生当事者団体や地域の要約筆記・手話通訳グループ、通訳派遣機関等との連携や情報交換を行っています。PEPNet-Japanの連携機関でもあり、各事業に多くのスタッフが参画しています。

聴覚障害学生・支援学生・支援担当者に寄り添い、 長期的な視野で、支援体制づくりのお手伝いを。

聴覚障害学生支援が全国的に整いつつあります。しかし、聴覚障害学生・支援学生が、聞こえない先輩や経験者に安心して相談できる、細かな指導・研修を受けられる体制はまだ十分には整っていません。また、支援担当者が気軽にアドバイスを受けたり情報交換ができる機会もまだまだ少ないのが現状です。

サポートセンターでは、ひとつひとつの大学が、長く安定した支援を提供できる体制を築けるよう、その大学に合った方策を提案し、制度構築のお手伝いするとともに、聴覚障害学生・支援学生・大学担当者など関係者全員が安心して相談できる機関として活動していきます。お気軽にご相談ください。

参考資料

- 吉川あゆみ・太田晴康・広田典子・白澤麻弓（2001）「大学ノートテイク入門」人間社
- 白澤麻弓・徳田克己（2002）「聴覚障害学生サポートガイドブック」日本医療企画
- 吉川あゆみ・岡田孝和他（2007）「大学ノートテイク支援ハンドブック」人間社

問い合わせ先

HPのContactページよりお問い合わせください。

群馬大学

●支援組織名称 大学教育・学生支援機構
学生支援センター 障害学生支援室

●スタッフ 障害学生サポートルーム職員 4名、うち 1名は聴覚障害者

聴覚障害学生	7名	(内訳) 学部生	7名
視覚障害学生	0名	肢体不自由学生	3名
発達障害学生	2名	その他	1名

2013年5月1日現在

設置形態	国立大学法人
学生数	約 6600 人 (学部・専攻科・大学院を含む)
所在地	〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地

学内支援体制

・平成 17 年 6 月 10 日に障害学生への修学支援の基準を統一化して、「群馬大学障害学生修学支援実施要項」を制定し、全学的な取り組みを開始した。
・平成 22 年度から大学教育・学生支援機構の学生支援センターに障害学生支援室を設置して新たにスタートした。
・現在は障害学生サポートルーム職員がコーディネートを行い、各学部と連携して支援している。

ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	■ノートテイク ■パソコンテイク		
利用者数	7名	学部生	7名
		その他	
ノートテイク数	登録テイク 120 名 (学生および外部者)		
サービス提供時間数	障害学生が希望するすべての授業 (ゼミや就職ガイダンスなどの大学が実施する各種講座も含む)		
報酬および経費	800 円/時間 (1 コマ 1,200 円)		
募集方法	オリエンテーション等でのチラシ配布や呼びかけ (聴覚障害学生自身の呼びかけも含む) と講習会の実施。地域の文字通訳者等学外にも依頼。		
コーディネート方法	コーディネートは障害学生サポートルーム職員が行う。テイクは登録テイクが有償で行う。コーディネートシステムを導入し、登録テイクの配置・調整を行っている。1 授業 (90 分) にテイク 2 名配置。		
養成方法	登録時に講習 7.5 時間を行う。障害学生サポートルーム職員とテイク学生が講師となり実践練習を含めて行う。		
本学ノートテイク・パソコンテイクの特徴	PC テイクは PC 連係入カソフト (IPtalk) による 2 名連係入力。講義以外の実習等、学外での情報保障も行う。iPhone などを利用して、障害の程度や環境に応じた学生のニーズに対応している。		

手話通訳

利用者数	3名	学部生	3名
		その他	
手話通訳者数	20 名程度 (学外への依頼含む)		
サービス提供時間数	聴覚障害学生が希望するすべての授業 (ゼミや就職ガイダンスなどの大学が実施する各種講座も含む)		
報酬および経費	職員は、給与として支給。外部の手話通訳者には、1 時間あたり 3,000 円支給		
募集方法	職員で対応できない場合は、群馬県認定手話通訳者協会と群馬県手話通訳問題研究会に手話通訳者の紹介を依頼。		
コーディネート方法	コーディネートは障害学生サポートルーム職員が行う。1 授業 (90 分) に 2 名配置。		
養成方法	職員も含め手話通訳者は通訳終了後、活動報告書を提出してもらい、問題点を把握し、次回の改善へつなげている。聴覚障害学生を交えた反省会を定期的に行うことで技術向上に努めている。		
本学手話通訳の特徴	職員が手話通訳業務を担う。		

<その他> ネイティブスピーカーによる語学の授業については、留学生への呼びかけや、学外からテイクを広く募集しているほか、英語の音声認識ソフトを導入している。

Check!

ガイダンスや事務手続き等、授業以外の大学生活に関わることについても情報を保障。全学的な統一基準により、どの学部でも質の高い支援体制が可能。

情報保障の充実に向けて

<情報保障サークル「てふてふ」>

聴覚障害学生と学生テイクの交流と技術向上を目的としたサークルが活動しており、学生同士の交流会のほか、手話サポーター、テイク養成と研修にも協力してもらっている。

<学生の手話スキルの底上げ>

手話サロン (初級・上級コース) を設け、学生が手話に触れる機会を提供。上級コースに参加し、障害学生サポートルームが独自に作成した選考試験に合格した者に手話サポーターとして手話ニーズのある聴覚障害学生の実技系 (体育など) の授業のサポートをもらっている。

サービス向上を目指して

学生のテイクは卒業し入れ替わってしまうので、新規のテイクの募集にも力を入れている。その際、学生の協力を得て勧誘・紹介をしてもらうなど、学生同士のつながりも大切にしている。

聴覚障害者支援について広く知識と問題意識をもってもらえるよう、情報提供していくことも心がけている。

問い合わせ先

学務部学生支援課
(電話 027-220-7136 / FAX 027-220-7620)
障害学生サポートルーム
(電話&FAX 027-220-7114)

静岡福祉大学

- 支援組織名称 静岡福祉大学学生総合支援センター内 障害学生支援室

- スタッフ 教員 4 名、職員 1 名

聴覚障害学生	(注)	学部生	(注)
		院生	
視覚障害学生	(注)		
肢体障害学生	(注)		

注：個々の障害形態と学生数についてはプライバシー保護のため原則として公表していません。

設置形態	私立大学
学生数	731 人 (2013 年 10 月 1 日現在)
所在地	〒425-8611 静岡県焼津市本中根 549 番 1

学内支援組織図 学生総合支援センター内
障害学生支援室(各学科教員及び職員より構成)

ノートテイク(手書き)・パソコンノートテイク

提供しているサービス	◎ノートテイク(手書き) ◎ポイントテイク(手書き)※ ◎パソコンノートテイク		
利用者数	(注)	学部生	(注)
		院生	
ノートテイク数	13 名 (NT 8 名/PC 5 名)		
サービス提供時間数	週 10 コマ		
報酬および経費	1,000 円/時間 (+交通実費)		
募集方法	学内外の掲示板にノートテイク募集案内を掲示。		
コーディネート方法	学生教務課職員が連絡調整を担当し、障害学生支援室が協力。		
養成方法	「障害支援技術論」(半期 2 単位)を開講するほか、本学教員主宰のノートテイク勉強会を開催。		
本学ノートテイク・パソコンノートテイクの特徴	・本学教員が監修した専用ソフト「まあちゃん」を活用。 ・聴覚障害学生にとどまらず視覚障害、肢体不自由学生等も利用する。		

手話通訳

利用者数	(注) 0	学部生	(注) 0
		院生	
手話通訳者数	地域の公的派遣制度(公費派遣と本学費用負担派遣を併用)を活用することもある。		
サービス提供時間数	必要時		
報酬および経費	(公的派遣基準)		
募集方法	公的派遣機関に依頼		
コーディネート方法	学生本人、学生課職員、障害学生支援室長が公的派遣機関に依頼。		
養成方法	(手話通訳の養成はしていない)		
本学手話通訳の特徴	専門用語が頻出する。		

※ポイントテイクとは、聴覚障害以外の障害学生を対象に、板書の筆写、重点項目の筆記等、授業で伝達される情報のうち、ポイントに絞ったノート記録を指す。

Check!

障害学生支援室では、「障害のあるなしにかかわらず、ともに社会参加できる」教育環境を実現するための役割を担います。そうした環境を通じて私たちは、学生が本校を卒業したとき自らに必要な支援とは何か、第三者に説明し、主体的に最適な環境を作り上げていくことができるような方向を目指します。当事者によるセルフマネジメントの力をつけること、それは本学が掲げる「福祉力」の向上にもつながります。

文部科学省科学研究費補助金を活用した支援の構築を計画

文部科学省科学研究費(基盤研究B)を活用し、2009年度から2013年度の5か年を通じ、「高等教育機関における障害学生『情報コミュニケーション』支援システムの構築」(研究代表者:太田教授)を研究課題として実施中である。支援方法であるノートテイクを聴覚障害にとどまらず、視覚障害、肢体不自由を含む障害学生の情報バリアフリーシステムとして位置づけ、障害種別を超えた総合的な支援を模索している。

サービス向上を目指して: 障害学生支援の課題の一つは、支援費用の持続的な確保にあります。そこで本学では私立大学等経常費補助金の活用はもちろんのこと、県共同募金会への申請等、さまざまな知恵を絞っていますが、基本的な考え方として公的な保障が欠かせないと考えます。障害のあるなしにかかわらず学習権を保障する方向を誰もが当然のこととして認める社会の到来を心から願っています。

参考資料 <http://www.suw.ac.jp/>

問い合わせ先: 静岡福祉大学 事務部入試広報室
TEL054-623-7451 FAX054-623-7453
E-mail siryo@suw.ac.jp

金沢大学

大学教育開発・支援センター

●支援組織名称 大学教育開発・支援センター
http://www.rche-kanazawa-u.jp/

●スタッフ 専任教員5名（特任助教4名、専任職員0名）

聴覚障害学生	2名	学部生	2名
		院生	0名
視覚障害学生	1名		
肢体障害学生	3名		

設置形態	国立大学法人
学生数	10,394名（平成25年5月1日現在）
所在地	〒920-1192 石川県金沢市角間町

障害学生支援委員会

教育担当副学長（委員長）
大学教育開発・支援センター長
保健管理センター長
学生部担当課長、他

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコンノートテイク		
利用者数	1名	学部生	1名
		院生	0名
ノートテイク数	31名		
サービス提供時間数			
報酬および経費	950円／1時間（学生部予算）		
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。学内ポータルによる募集メッセージ。		
コーディネート方法	共通教育科目（教養科目）に関しては共通教育学務係が、専門科目に関しては聴覚障害学生の所属している学類学務係が担当。		
養成方法	学外の講師によるノートテイク養成講座（障害学生支援委員会主催）を年度末に開催。支援学生がいる場合には、前期にも実施。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	近隣の他大学から依頼を受けて、ノートテイクによる派遣の実績有り		

その他の支援

入学式での手話通訳者設置	学外組織に依頼
磁気ループの敷設	
字幕デコーダーの設置	
野外実習補助	ノートテイク学生が兼務

Check!

多様な障害に対する、研究に基づく有効な支援方を学内外に提言

トピック

センター企画の1年前期共通教育科目「学生と大学システム」（自由履修）において、15回のうち2回、聴覚に障害のある社会人を手話通訳付きで講師としてお願いしている。授業情報保障が無かった大学での学生生活を振り返っていただき、聴覚障害学生にとって、大学での授業は情報保障がなければ、理解は不可能であることを語ってもらっている。

ノートテイクを、担当時間数に応じて、学長表彰および副学長表彰の対象者として推薦している。

学校教育学類の障害児教育担当教員との連携を図っている。
大学コンソーシアム石川との連携を常に心がけている。

サービス向上を目指して

情報保障を必要とする聴覚障害学生は2008年度以降在籍していない。2012年度に入学した視覚障害（視野狭窄）の学生に、授業情報保障としてノートテイクを行っている。2013年度から、文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」に採択された取り組みの一事業として、大学コンソーシアム石川加盟高等教育機関におけるノートテイクの合同養成とバンク化に向けた取り組みを始めている。大学間連携でノートテイクを融通しあい、地域の障害学生支援力を一緒に向上させたいと考えている。

問い合わせ先

教育支援システム研究部門 担当：青野 透
E-mail: aono@staff.kanazawa-u.ac.jp

愛知教育大学

- 支援組織名称 障害学生支援ワーキンググループ (WG)
情報保障支援学生団体「てくてく」・教務課
- スタッフ WG 教員 5 名・「てくてく」スタッフ、教務課職員

聴覚障害学生	4 名	学部生	4 名
		院生	0 名
視覚障害学生	1 名		
肢体障害学生	0 名		

設置形態	国立大学法人
学生数	4305 名 (学部 3950・大学院・325・専攻科 30)
所在地	〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1 (名鉄本線「知立駅」より名鉄バス 20 分)

学内支援組織図	聴覚障害学生 ↓ ↑ 支援学生団体「てくてく」・障害学生支援 WG 教員・教務課 ↓ ↑ 情報保障者、事務職員 (学生支援部-教務課・学生支援課、 キャリア支援課・入試課、財務部-施設課)
---------	---

パソコンテイク・ノートテイク

提供しているサービス	パソコンテイク・ノートテイク		
利用者数	4 名	学部生	4 名
		院生	0 名
ノートテイク数	110 名 (講義担当 50 名、約 10 名が DVD・ビデオ等の字幕付けの担当)		
サービス提供時間数	週 39 コマ (すべて PC テイク)		
報酬および経費	2280 円 / コマ (90 分) (支援学生 1 名につき 1140 円支給。各講義 2 名配置。)		
募集方法	(PC) 新年度のガイダンス等で、全学的に有志の学生を募集している。 (NT) 専門性を必要とする英語・第二外国語・数学・理科等の講義は、関係する講座の教員に専門性の高い学生を推薦・紹介してもらっている。		
コーディネート方法	学生コーディネーターが、聴覚障害学生のニーズを把握し、各種配置、コーディネート業務を行っている。		
養成方法	週 2 日 (月・木)・昼休みを利用して、連絡および研修する場を設けており、年数回、休日に練習会を開催している。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	携帯連絡システムによる情報交換・中間・事後報告会等の実施を重ねながら、量的・質的向上を図っている。		

その他の支援

学外手話通訳者の派遣	授業の形態によって、週 1~2 コマ程度、学外手話通訳者の派遣を依頼している。(パソコンテイク・ノートテイクとの併用も可能。10000 円 / コマ (90 分)、通訳者 1 名につき 5000 円支給。2 名配置。)
視聴覚教材の字幕作成	講義で視聴覚教材を使用する場合は、事前にメディアを借り、字幕付けの作業を行っている。
遠隔情報保障システムを用いた支援	遠隔情報保障システムを利用して、自宅など離れた場所からでも連携練習や支援に参加している。
式典、各種説明会での情報保障	式典や、大学が主催する講義以外の各種行事 (教務ガイダンス、オープンキャンパスなど) で、主にパソコンノートテイク・手話通訳による情報保障を行っている。
無線 LAN を用いた離れた場所での情報保障	講義中、支援学生が聴覚障害学生の隣にいることは、聴覚障害学生にとって心理的な負担となる。そのため、基本的に、教室内の離れた場所で、入力支援を行っている。

Check! 学生のノートテイク・パソコンノートテイク、学外手話通訳者による情報保障

聴覚障害学生の充実した学生生活の支援

- (1) 情報保障学生団体「てくてく」の活動 全学的に約 100 名の学生が支援活動に係わり、聴覚障害学生とともに学内の支援に関して情報交換・研修を行っている。
- (2) 他大学の支援活動 東海地区の大学より要請があれば研修会を開催し、本学の支援活動のノウハウを紹介している。
- (3) 様々な聴覚障害学生の支援
 - 1) 講義の情報保障 ノートテイク、パソコンテイク、手話通訳による支援が、聴覚障害学生のニーズに応じて実施されている。
 - 2) 講義以外の情報保障 入学式・卒業式などの各種行事、各種実習、ガイダンス時の情報保障も実施している。
 - 3) 教育実習での配慮 聴覚障害学生の小学校教育実習は、附属小学校又は通常小学校での実習を、県内聾学校の小学部実習に振り替えることができる。

サービス向上を目指して

- ・聴覚障害学生は、特別支援学校教員養成課程に在籍しているため、同課程内の聴者の学生の各種支援に関する問題意識が高いこと等、恵まれた環境にある。
 - ・情報保障者が担当できる時間帯などに制約があり、一部の学生に作業が集中するといったことが生じている。
- 一課題を整理し、よりよいサービスを目指していきたい。

参考資料 「愛知教育大学 障害学生支援ガイド」
「愛知教育大学 聴覚障害学生の情報保障 教員用ガイドブック」
「愛知教育大学 保障団体『てくてく』リーフレット」

問い合わせ先 注) ①情報教育講座、②障害児教育講座
① 高橋 岳之 e-mail: take@aeucc.aichi-edu.ac.jp
② 岩田 吉生 e-mail: yiwata@aeucc.aichi-edu.ac.jp

日本福祉大学

● 支援組織名称 日本福祉大学障害学生支援センター
URL <http://www.n.fukushi.ac.jp/shiencenter/index.htm>

● スタッフ センター長 1名 センター教員 1名、
専任職員 1名、委託職員 2名

聴覚障害学生	55名	学部生	39名
		院生	1名
		通信	15名
視覚障害学生	38名		
肢体障害学生	115名	その他95名	

設置形態	私立大学
学生数	5,276人(院生、通信を含むと12,410人)
所在地	〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田

学内支援組織図
障害学生支援センターは学生部の一機関
障害学生支援センター運営委員会(各学部の教員、教務・就職関係職員、学生支援課職員で構成)

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	■ノートテイク ■パソコンテイク		
利用者数	27名	学部生	27名
		院生	0名
ノートテイク数	ノートテイク 122名 パソコンテイク 42名		
サービス提供時間数	149コマ/週 (2013年前期)		
報酬および経費	ボランティア(奨励金支給)		
募集方法	入学当初のオリエンテーションやボランティア論等の講義で聴障学生が呼びかけ。各自が掲示板に募集ポスターを掲示。障害学生支援センターのボランティア登録者へ依頼。		
コーディネート方法	聴覚障害学生自身が直接依頼するか、障害学生支援センターからボランティア登録者へ依頼する。		
養成方法	ノートテイク相談会、ボランティア講座(学生主催)、サークルによる練習など。ホームページで養成講座オンデマンドコンテンツ公開。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	複数の聴覚障害学生が受講している場合は、OHCを利用。設置は障害学生支援センターで実施。経験ある学生と障害学生が学生スタッフとして、運営・指導に協力。		

ともに考える支援

障害学生支援センターの設置	学習支援や生活支援の方法は、障害学生・支援学生・教職員が一緒に考えます。 障害学生の生活から、ボランティア活動支援まで、障害学生支援センターがさまざまな相談に応じています。
入学式での手話通訳者設置	入学式、卒業式、全学的な講演会、受講ガイダンスなどで設置。
字幕づけ	講義に利用するVTRについて、学生サークル「くまじ」が字幕付けソフトを利用して字幕を付けている。
テープ起こし	字幕が間に合わない場合には、ボランティア登録学生が分担して、音声文字化し、プリントアウトして障害学生に渡す。
ライブラリー化	字幕付け・テープ起こしをしたことがある映像教材の一覧を作成し、教員控室に配置。字幕付け127タイトル、テープ起こし234タイトル。
手話通訳派遣事業	2010年度から、2・3年生の希望者のゼミへ、年15回まで派遣。

支援サークルの活動

学生が「ともに学び、ともに育つ」

- ・点訳サークル「にゅーてんてん」…講義資料等の点訳
 - ・字幕づけ「くまじ」…教材VTRの字幕づけ
 - ・パソコンテイク「PCT」…パソコンテイク
 - ・学生スタッフ…ノートテイク初心者への指導、機材のセッティング、ボランティア講座への協力、ボランティア団体の連携支援
- ※聴覚障害、視覚障害、肢体障害のそれぞれにサークルがあり、ピアサポート活動などで障害学生支援センターの事業に協力しています。

参考資料

障害学生のためのキャンパスガイド、
障害学生支援センター年報13号

問い合わせ先

日本福祉大学障害学生支援センター
TEL: 0569-87-2432 FAX: 0569-87-2376
Email: support-c@ml.n-fukushi.ac.jp

同志社大学

設置形態	私立大学
学生数	28,899人 (2013年5月1日現在、大学院生含む)
所在地	【京田辺校地】 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 【今出川校地】 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

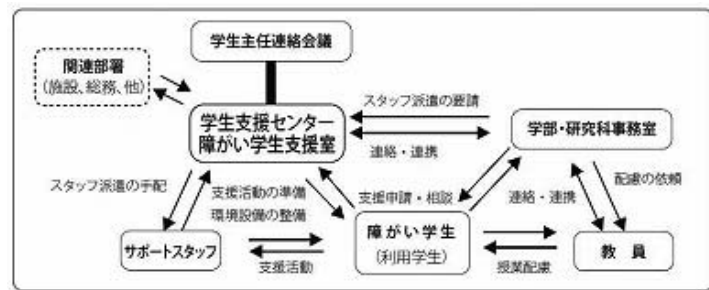
●支援組織名称 障がい学生支援室 (事務局・京田辺校地学生支援課)
URL <http://challenged.doshisha.ac.jp/>

●スタッフ 職員11名 (うち手話通訳者1名)

聴覚障がい学生	50名
視覚障がい学生	11名
肢体障がい学生	29名
内部障がい学生	13名

*その他 重複障がい学生 4名

学内支援組織図



ノートテイク・パソコン通訳

提供しているサービス	ノートテイク (NT)、パソコン通訳 (PC)		
利用者数 (聴覚)	制度登録	学部生	9名
	9名	院生	0名
ノートテイク者数 パソコン通訳者数	2013春スタッフ登録255名 (7月現在) 2013春活動者 159名		
サービス提供時間数	2013春学期: 週86コマ (内、NT3コマ/NT+PC11コマ/PC72コマ)		
報酬および経費	880~1,320円/時間 (大学経費)		
募集方法	入学時説明会・掲示板・立看板・HP・案内パンフレット・学生支援課企画の映画や大型ビジョンによる募集。		
コーディネート方法	障がい学生支援室のコーディネーターが障がい学生の相談窓口となり支援スタッフの募集・養成・派遣・相談等調整を担当。障がい学生在籍学部事務室を始め全学的に入学前から連携をとり対応。		
養成方法	前期、後期にノートテイク・パソコン通訳事前勉強会・入門講座を継続的に開催。その他、随時希望があれば対応。		
本学ノートテイク・パソコン通訳の特徴	学期前面談により、利用学生のニーズに合わせた講義保障を提供。学期末に懇談会の実施。複合領域科目として夏期集中講義『「こころのバリアフリー」を考える』を開講 (単位付与)。		

ビデオ文字起こし・字幕付け

利用者数 (聴覚)	制度登録	学部生	9名
	9名	院生	0名
字幕付け数	21本 (2013年春学期実績)		
報酬および経費	880/時間 (大学経費)		
募集方法	入学時説明会・掲示板・立看板・HP・学生支援課企画の映画や大型ビジョンによる募集。		
コーディネート方法	障がい学生支援コーディネーターが窓口となり、利用学生および担当教員の依頼に応じて対応。字幕付け専用ソフト・PC有。		
養成方法	勉強会を適宜実施。		

手話通訳

手話通訳についても対応。入学式・卒業式・クリスマス燭火讃美礼拝は、聴覚に障害のある学生・ご父母のため、手話通訳を必ず実施。

Check!

全学的な組織による講義保障!
(学生同士の関わりの中で育む制度)

コミュニケーション・デバッドの克服

障がい学生のみではなく、支援スタッフにも着目し、学生同士の関わりの中で自然に手をさしのべられるような大学を目指す。

具体的な場の設定...2013年度

・ランチタイム手話

聴覚障がい学生を囲みランチをとりながら手話でおしゃべり

・Challenged キャンプ (2泊3日 岡山県) ...2013年度

障害のある学生と共に、聞こえない・暗闇・車いす等の体験を通し、サポートされるという枠を超えたキャンプ

・「こころのバリアフリー」を考えるー共に生きる社会をめざしてー (複合領域科目)

障がい者を取り巻く状況・実情を踏まえつつ、「コミュニケーションのバリアフリー」をキーワードとして、障がい者とそれを支援する人々双方の気付きに着目しながら、自律的な成長の実現を目指す。

サービス向上を目指して

約29,000人の学生が在学している中で、障がい学生支援スタッフは1%に満たない状況である。合格者の第一次手続き者への郵送物に「障がい学生支援制度ー案内パンフレットー」を封入し、全教職員に「障がい学生支援制度ー教職員のためのガイドー」を配布しているが、もっと身近な取り組みとしてサポートを行えるよう、啓発していかなければならない。また、障がい学生のキャリア形成・就職支援についてもキャリアセンターと共に取り組んでいる。

参考資料

障がい学生支援制度ー案内パンフレットー

問い合わせ先

学生支援センター 京田辺校地学生支援課 障がい学生支援室
tel 0774-65-7411 fax 0774-65-7024

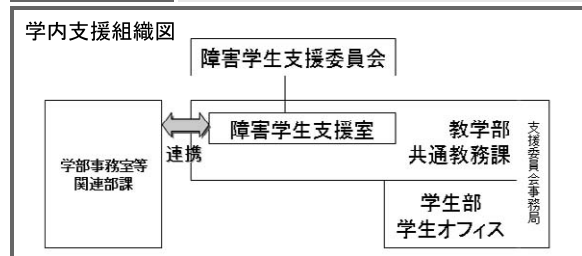
立命館大学

●支援組織名称 立命館大学障害学生支援室

●スタッフ 専門契約職員 2名、学生スタッフ 40名

聴覚障害学生	4名	学部生	3名
		院生	1名

設置形態	私立大学
学生数	35,204人
所在地 (法人本部)	〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀1



ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記、FMマイク使用等		
利用者数	3名	学部生	2名
		院生	1名
ノートテイク数	23名		
サービス提供時間数	1人つき週5~10コマ		
報酬および経費	800円/時間(1コマあたり2時間)		
募集方法	講習会を開催し、受講者のうち希望者をスタッフとして登録。専門性の高い授業の場合は教員・学部事務室を通して募集。		
コーディネート・養成方法	障害学生支援室にてテイク講習や連携練習を実施。学部・語学など属性に合わせてコーディネート。その際、学生コーディネーターが活躍している。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	ノート・パソコンテイクだけでなく、教員、受講生への配慮依頼、席の配置、機器の使用などを組み合わせて、最適な方法を追求している。		

その他の支援

入学式・卒業式での配慮	希望に従って、手話通訳、車椅子の誘導、ガイドヘルプなどを配置。
視覚障害学生の授業支援	教材加工、映像解説、試験時の点訳・墨訳等
肢体不自由学生の授業支援	ポイントテイク(ノート作成)、介助、定期試験時の配慮等
専用パソコン室の設置	肢体不自由学生用(音声入力ソフト・トラックボールマウス等)、視覚障害学生用(音声読み上げソフト、点訳ソフト、点字プリンタ、拡大読書器)の機器を設置、支援室開室時に使えるように整備。
学生ルームの設置	学生スタッフの活動拠点となる学生ルームを障害学生支援室横に設置。障害学生との交流の場としても活用されている。
教員への配慮文・手引きの配布	授業担当教員に配慮文・手引きを配布し、随時障害学生支援室にて教員のサポートを行っている。
講習会開催	ノート・PCテイク、介助等の講習会を年5回以上開催。

Check!

全学受付窓口の設置

障害学生・支援学生スタッフ・教員・職員の一貫相談受付窓口設置(障害学生支援室)

学生スタッフ

立命館大学では、従来からボランティアとして障害学生を支援してきた学生と、各種講習会に参加した学生が中心となって、障害学生の支援を行っています。

特徴としては、学生のコーディネーターが、シフト組みや障害学生・支援学生のメンター的な役割を担い、チームを組んで支援を行うなど、学生同士の関係構築に力を入れています。

障害学生と、学生スタッフ両方の成長につながる仕組みづくりに取り組んでいます。

取り組み

★ 各種講習会の実施
ガイドヘルプ講座、PC・ノートテイク講座など

★ 密な連絡体制
ミーティング、メーリングリストなどで活動状況を把握、連絡体制を取っています。



参考資料

HP <http://www.ritsume.ac.jp/acd/ac/kyomu/drc/>

問い合わせ先

立命館大学障害学生支援室
Tel 075-465-1952 Fax 075-465-1982
E-mail drc@st.ritsume.ac.jp

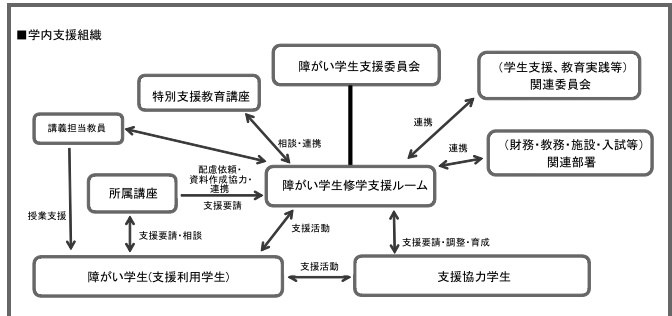
大阪教育大学

●支援組織名称 大阪教育大学 障がい学生修学支援ルーム

●スタッフ 教員 2名(兼任1名含)、職員 3名(兼任1名含)

障害学生数 7名

設置形態	国立大学
学生数	4684人
所在地	〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1



パソコン、ノートテイク・要約筆記

提供しているサービス	パソコンテイク ノートテイク 要約筆記 手話通訳
利用者数	7名
登録支援学生数	63名
サービス提供時間数	週 29 コマ (PC 29 コマ)
報酬および経費	1000 円/時間
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示、入学ガイダンス時にチラシを配布、学生による講義室での PR 活動。
コーディネート方法	学期開始前に障がい学生とコーディネーター、職員が面談を行い、ニーズを確認したうえで、学生担当者と職員が連携してコーディネートを行う。 また、授業開始前にコーディネーターと職員が授業担当教員に直接会い、授業期間中を通じて密に連絡・相談を行う。
養成方法	コーディネーターによるガイダンスを障がい学生、支援協力学生ごとに学期前に実施。昼休みに手話講習会、パソコン講習会、ノートテイク講習会を開催。
本学パソコン、ノートテイク・要約筆記の特徴	障がい学生の要望によりパソコンテイクが主流になっている。授業の形態によりノートテイクや手話通訳による支援も対応できるよう研修を行っている。

その他の支援

字幕挿入	講義で視聴覚教材を使用するときには、支援協力学生が文字おこしのデータを字幕挿入する。 【報酬および経費】 1000 円/15 分 (映像データ)
各種行事・説明会での情報保障	要請に応じ、必要な行事・説明会にも支援協力学生を派遣し、情報保障を行っている。 式典には必要に応じ、外部の手話通訳士を派遣することもある。
教職員対象講習会	発達障がい等に関する講習会を実施している。
別室対応	発達障がいのある学生に対し、遠隔講義システムの活用と、休息場所を確保している。

Check!

特任教授によるコーディネート

臨床心理士でもある特任教授がコーディネーターとして障がい学生と随時面談を行います。また、支援協力学生のサポートにも全面的に協力し、「すべての学生が共に気持ちよく学べる」大学を目指しています。

特別支援教育講座がある大学

障がい学生一人ひとりに応じたよりよい支援活動を実施するために、特別支援教育講座の先生方とも常時連携しています。

歴史と伝統のある学生による支援活動

学生サークル「聴覚障害学生と共に手話を学ぶ会」を中心に講義保障活動を展開してきた志しやノウハウを大切に生かしていきます。

トピック

平成 24 年度に障がい学生修学支援ルームが設置され、今年度はルームが移転拡充し、さらに遠隔情報支援室も設置されました。夏休みには「研修合宿」を実施し、聴覚障がい、視覚障がいのある学生と支援協力学生、教職員が参加しました。理解を深め、課題を話し合うことで、ともに成長していきます。

【「研修合宿」プログラム】

- ・大阪市立聴覚特別支援学校 (大学見学) の生徒と交流
- ・聴覚障がいのある外部講師による講演
- ・手話を通じて学ぶ企画
- ・遠隔情報保障研修会
- ・夜、朝のミーティング
- ・自己紹介企画

サービス向上を目指して

障がい学生と支援協力学生が普段からの交流を通じて互いの理解を深め、より質の高い支援活動につなげていけるよう、ミーティングや勉強・研修、休憩などに使用できるオープンスペースを開設しました。(平成 25 年 4 月)

参考資料

<http://osaka-kyoiku.ac.jp/campus/gakusei/sienroom/index.html>

問い合わせ先

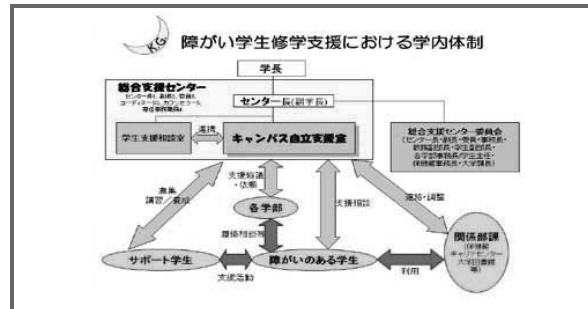
障がい学生修学支援ルーム TEL・FAX 072-978-3479

関西学院大学

- 支援組織名称 学生活動支援機構総合支援センターキャンパス自立支援室
http://www.kwansei.ac.jp/university/university_003952.html
- スタッフ 職員7名（うちコーディネータ4名、非正規2名）
センター委員（教員）8名

聴覚障害学生	10名	学部生	10名
		院生	0名
視覚障害学生	4名（学部生4名 院生0名）		
肢体障害学生	10名（学部生8名、院生2名）		

設置形態	私立大学
所在地	（西宮上ヶ原キャンパス）〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155 （神戸三田キャンパス）〒669-1337 兵庫県三田市学園2-1 （聖和キャンパス）〒662-0827 兵庫県西宮市岡田山7-54



ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	■ノートテイク ■パソコンテイク		
利用者数	8名	学部生	8名
		院生	0名
ノートテイク数	255名（字幕付けスタッフ含む）		
サービス提供時間数	2013 春学期 週 93 コマ		
報酬および経費	1000 円/時間		
募集方法	募集ポスター・チラシ・立て看板・教学WEBサービスにより募集。すでに参加している学生による口コミも活用。募集用DVDの作成。		
コーディネート方法	コーディネータが、ノートテイクの配置・連絡・調整を担当。MLを活用し、代理テイクの確保・連絡等を行っている。		
養成方法	ノートテイク養成講座（6時間）を学期開始前に実施（聴覚障がい学生や先輩テイクが講師として協力）。中間ミーティングで各授業支援方法を見直し、改善案をその学期に活かす。		
本学ノートテイク・パソコンテイクの特徴	パソコンテイクは、パソコンテイク2人に手書きサポート1人を加えた3人体制で実施している。授業の情報保障では、パソコンテイクはIPtalkを使用せず、WORDに単独入力し、10分程度で相手テイクと交替する方式。講演会など、行事の情報保障では、IPtalkを使用することもある。学期末にはアンケートを実施し、毎学期末ごとに意見交換会の場を持ち、制度運営の見直しを行う。		

その他の支援

カウンセラーとの連携	総合支援センター学生支援相談室のカウンセラーと合同で事例検討会を開催するなど、連携して障がい学生支援を行っている。
手話通訳	講演会などの学内行事に、必要に応じて手話通訳者を配置する。2011年度は研究演習科目（ゼミ）にも配置している。
キャリアガイダンス等各種行事への手話通訳・ノートテイク・パソコンテイクの派遣	障がい学生から依頼があった場合は派遣する。
電磁誘導ループ	大教室を中心に設置している。
ビデオ文字起こし・字幕付け	年間 24 本 (2012 年度)
学生フリースペース	支援センター事務スペースに隣接して学生の交流スペースを設置。言語科目として日本手話を選択履修している支援学生もおり、時折、手話によるコミュニケーションが見られる。
聴覚以外の障がい支援	発達障がい、視覚障がい、肢体障がい等、学生の困り具合に応じて個別対応を行っている。

Check!

建学の精神に基づいた全学的支援

大学の掲げるミッションステートメントと障害者支援基本理念に根ざし、全学的な支援体制をとっています。総合支援センター委員会には40名以上の教職員が集まって、支援基本方針等を審議します。

参考資料

関西学院大学（総合支援センターキャンパス自立支援室）

<http://www.kwansei.ac.jp> → キーワード「修学支援」で検索

問い合わせ先

学生活動支援機構総合支援センターキャンパス自立支援室
西宮上ヶ原キャンパス

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

電話：0798-54-7034 FAX 0798-54-7044

E-mail: jiritsu-nuc@kwansei.ac.jp

神戸三田キャンパス

〒669-1337 兵庫県三田市学園2-1

電話：079-565-7903 FAX 079-565-7929

E-mail: jiritsu-ksc@kwansei.ac.jp

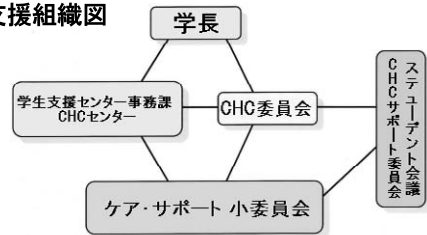
四国学院大学

設置形態	私立大学
学生数	1308人
所在地	〒765-8505 香川県善通寺市文京町3-2-1

- 支援組織
人権と文化の多様性に関する委員会 (CHC)
- スタッフ CHC委員 11名(うち学生2名) コーディネーター 1名

聴覚障害学生	14名	学部生	14名
		院生	0名
視覚障害学生	3名(2名肢体と重複)		
肢体障害学生	14名		

学内支援組織図



ケア・サービス

提供しているサービス	□アテンダント □ノートテイク □パソコン要約筆記		
利用者数	14名	学部生	14名
		院生	0名
サービス提供者数	57名 (A 28名/NT 34名/PC 8名)		
サービス提供時間数	週 95コマ (A 35コマ/NT 60コマ)		
報酬および経費	680~1000円/時間		
募集方法	新入生オリエンテーションで、ケア・サービスを紹介。また、イベントなどで実際に体験できる機会を設けるなどしている。		
コーディネート方法	学期初めに利用者の登録を確認後、CHCで組み合わせを決定している。		
養成方法	小委員会に属する先輩による講習会や、利用者と勤務者を集めての意見交流会などを実施。また、アテンダントには介護講習への参加を義務付けている。学生間の交流を増やし、技術の均等化と向上を目指している。		
本学ケア・サービスの 特徴	これまでのノートテイク、アテンダント両サービスを統合し、本学の建学憲章にある「私たちの基本理念」に基づいてサービスを提供している。		

手話通訳

利用者数	1名	学部生	1名
		院生	0名
手話通訳者数	2名(手話通訳士に依頼)		
サービス提供時間数	週 1コマ		
報酬および経費	5250円/時間		
募集方法	外部委託		
コーディネート方法	学期初めに利用者の登録を確認後、必修、選択必修の順に受講者数の多い科目や、4年生の演習等にCHCが調整を行い派遣している。		
養成方法	直接的養成ではないが、カリキュラムとして実施し、まず関心をもってもらうために、教養科目の語学講義に前期に日本手話Ⅰを2クラス、後期に日本手話Ⅱを2クラス設けている。		
本学手話通訳の特徴	講義のみならず、学内行事においては、入学式、卒業式、各種講演会など手話通訳の配置が常態化している。		

Check!

毎年マイリティ・ウィークや人権週間を実施。各種講演会や行事で人権啓発を行っている。

人権啓発に取り組んでいます。

すべての人が生まれながらに平等な存在として尊重され、生きていくことが、日本国憲法など法的に保障されています。しかし実際の社会生活では、必ずしも、すべての人が生きていくうえで平等な扱いを受けているわけではありません。民族、国籍、肌の色、性別、出生、親子関係、心身の障害、信仰、身体的特徴、性的指向、年齢、言語、食文化など、差別のきっかけになることはたくさんあります。自由な学問研究と教育を行う大学においては、いかなる形の差別も許されません。本学では、自由な教育と研究を確保するために「人権と文化の多様性に関する委員会」(CHC: The Committee for Human Rights and Cultural Diversity)を設け、差別のない大学づくりのために努力をしています。

新制度となって

旧制度と比べサービス提供者の数が増えた。その結果、これまで6割ほどしかなかったサービス提供率も9割ほどまで増えた。利用者の中にも「自分もできることがある」とサービス提供者になるものが現れ始めた。その一方で、利用者・提供者の双方に自己中心的な行動をとる者が増えるなど、意識の問題も表面化しはじめた。この提供率の維持と技術や意識の向上が、目下の課題である。

問い合わせ先 四国学院大学 CHC

教学事務部学生支援センター事務課内 CHCセンター
Tel.0877-62-2111(内線423) e-mail:chc@sg-u.ac.jp

広島大学

- 支援組織名称 アクセシビリティセンター
- スタッフ センター長1名、教員3名、情報支援コーディネーター1名、
 研究員2名、事務系職員2名、ティーチングアシスタント4名、
 学生インターン20～30名、実習受講生70名程度

聴覚障害学生	4名
視覚障害学生	5名
肢体障害学生	5名
その他	6名

ノートテイク・パソコン要約筆記

募集方法	教養教育科目「障害学生支援ボランティア実習A,B(以下、実習)」を開講/アクセシビリティセンター(以下、ACHU)でインターン(※AL資格取得者)を採用。※AL:アクセシビリティリーダー
コーディネート方法	当該部局をACHUが支援。ACHUは、実習生、インターンの派遣コーディネートを行う。
養成方法	アクセシビリティ関連講義(教養教育3科目、専門1科目:実習、概論、研究)の中で、筆記通訳、要約筆記の方法を指導。派遣のニーズに応じて、ノートテイク講習会を開催。ACHUで技術相談・ケアを行う。
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	●学内の支援活動を行う授業(実習)を開講。●AL育成プログラムによる人材育成●代筆と筆記通訳の組み合わせにより、3つのタイプのテイクを実施。●リスピーク通訳等、遠隔通訳との組み合わせを試行●タブレット端末・USBサブモニタの導入。

Check!

入学前から卒業まで、育てる支援
 全学体制、学生教職員一体型の授業支援

アクセシビリティリーダー育成プログラム

年齢や障害の有無、言語や文化の違い等の多様性に関わらず、誰もが社会の利便性を享受でき、多様な可能性を開拓できる社会をリードする人材“アクセシビリティリーダー”の育成を推進。

産学官連携の育成協議会を設立し、人材育成と人材活用を社会に開かれた形で展開。



設置形態	国立大学
学生数	約15000人
所在地	〒739-8511 東広島市鏡山一丁目3番2号



その他の支援

音声認識技術を活用した教育支援	●講義音声の字幕化:音声認識技術を活用して、音声字幕付教材を作成(講義音声+字幕+プレゼン画面)。講義終了後、音声字幕付教材をWEB配信。 ●リスピーク方式による、リアルタイム音声字幕化を試行。
入学式・卒業式での情報支援	必要に応じて要約筆記・手話通訳を実施。
ビデオ教材の字幕作成支援	字幕台本を作成し、事前配布。教材によっては動画への字幕付与を行なう。
筆談ボードの設置	各学部の学生窓口に設置。
障害学生への窓口対応パンフレットの配布	各学部の学生窓口、保健管理センター、図書館の職員へ配布。
補聴システムの貸与	赤外線・FM・有線補聴システムの貸与。
学生情報システム(ホームページ)での情報提供	シラバスに視聴覚教材情報の詳細(ビデオ本数、時間)を提示。
手話講習会の実施	年2回(前期と後期に各1回)実施。
アクセシビリティリーダー育成	<教育課程><資格認定>およびAL資格取得者を対象とした<研修合宿><インターンシップ>で構成される、人材育成・活用プログラム「AL育成プログラム」を実施。学内と地域で、資格取得者のインターン制度(ALI)を展開し、開かれた支援・修学環境のユニバーサルデザイン化を図る。

サービス向上を目指して

- ①知る機会、学ぶ機会の拡充
「オンラインアクセシビリティ講座」の配信
全学研修会、各種講習会の開催
- ②教育・人材育成の一環として、以下の科目を開講
「障害者支援 アクセシビリティ概論」
「障害学生支援 ボランティア実習A,B」
「環境・情報アクセシビリティ研究」
- ③ユニバーサルな教育支援方法の開発
次世代の教育支援方法を積極的に模索(音声認識活用など)

問い合わせ先
 アクセシビリティセンター
 TEL 082-424-6324, E-mail achu@hiroshima-u.ac.jp
 URL <http://www.achu.hiroshima-u.ac.jp/>

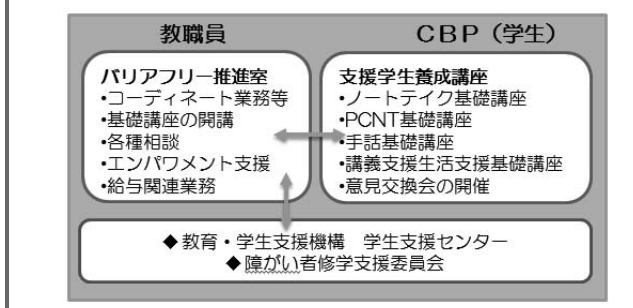
愛媛大学

設置形態	国立大学法人
学生数	9642人（大学院生・研究生含む）
所在地	〒790-8577 愛媛県松山市文京町3 http://www.ehime-u.ac.jp/index.html

- 支援組織名称（スタッフ数）
- バリアフリー推進室（4）
- 教育・学生支援機構 学生支援センター（5）
- 障がい者修学支援委員会（10）
- 障がい学生支援ボランティア（Campus Barrier-free Promoters：16）

聴覚障がい学生	2名
視覚障がい学生	1名
重複障がい学生	0名
肢体障がい学生	8名
発達障がい学生	5名

●支援組織図



ノートテイク・パソコンNT

提供しているサービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ノートテイク ■パソコンノートテイク ■手話通訳 ■代筆（聴覚・視覚・肢体不自由） ■講義支援・生活支援（肢体不自由） ■学生生活支援（聴覚・視覚・肢体不自由）
支援学生数	88名（NT 88名/PC 36名）
サービス提供時間数	希望する全ての講義に支援を提供
報酬および経費	900円/時間（障がい学生支援経費）
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。入学式などで活動紹介。全学メールで募集。
コーディネイト方法	バリアフリー推進室の非常勤職員3名が支援分担を調整している。利用学生と支援学生の調整を行い、できる限り専門性、経験のある学生を配置している。ノートテイクは1人の利用学生に対して2人つく事を原則としており、一方を経験者にするなど、よりよい情報保障が提供できるよう心がけている。
養成方法	障害学生支援ボランティア（CBP）の学生による、ノートテイク基礎講座及びパソコンノートテイク基礎講座を随時開講

その他の支援

入学式・卒業式の情報保障	パソコン通訳と手話通訳を用意している。
文字起こし・字幕入れ	講義等で使用する映像資料に字幕がない場合、字幕挿入ソフトを使用して字幕を入れている。
盲ろう学生への対策	盲ろう学生・肢体不自由学生向けの電子資料作成を行っている。
スチューデント・キャンパス・ボランティア（SCV）の協力	学生ボランティア（SCV）は9つのグループより構成されており、その中の障がい学生支援ボランティア（CBP）が支援活動を担っている。また、講座の開講及び利用学生と支援学生の意見交換会等も学生が企画・実行している。その他、必要に応じて他団体の連携も行っている。
支援機器の貸し出し	視覚障がい、聴覚障がい、肢体障がい等、多様なニーズに対応する生活支援機器の紹介、貸し出し、フィッティングを行っている。

Check! 学生と教職員によるコラボレーション
障害学生支援ボランティアの主体的な活動が力に!

◆現状と今後の課題

- 愛媛大学の特色は、大学組織である障がい者修学支援委員会・学生支援センター、バリアフリー推進室・支援学生（SCVのグループであるCBP）による、多方向からなる支援が挙げられる。
- バリアフリー推進室とCBP代表者の会議を基に、支援学生がそれに基づいた活動を展開している。利用学生や支援学生の意見を大きく反映するとともに、双方の学生の育成に貢献することを目指している。
- 障がい者修学支援委員会メンバーは、関係学部から議題に応じて対応出来るよう、専門教員を中心に構成されている。
- 非常勤職員がコーディネイト業務を担当するようになり、CBPの負担は軽減された。その分、支援学生に対してノートテイクなどのスキルアップ体制に力を入れられるようになった。
- CBPの顧問は、専門の教職員が担当。
- 幅広い障がい学生に対応できる支援システム構築に向けて、大学全体で取り組んでいる。

◆サービス向上を目指して

- バリアフリー推進室、学生支援センター、障がい者修学支援委員会、CBPの協力体制をより強固にし、より充実した支援体制の確立を目指す。
- 支援活動中に発生した利用学生、支援学生のトラブル等に早急に対応できるよう、報告書の提出を義務化し、迅速なフィードバックが行えるようにする。
- 利用学生と支援学生同士の自由な意見交換ができる環境を提供する。

◆参考資料

- バリアフリー推進室ホームページ
URL: <http://www.ehime-u.ac.jp/section/bfree/>
- バリアフリー推進室 Facebook ページ
URL: <https://www.facebook.com/bfreeehimeu>
- CBPのホームページ「はぐるぐ」
URL: <http://haguhagucbp.blog52.fc2.com/>
- 愛媛大学SCV（Students Campus Volunteer）
URL: <http://www.ehime-u.ac.jp/SCV/>
- 学生支援センター
URL: <http://web.csaa.ehime-u.ac.jp/>

◆問い合わせ先 バリアフリー推進室

TEL/FAX: 089-927-8114 E-Mail: bfree@stu.ehime-u.ac.jp

福岡教育大学

●支援組織名称 障害学生支援室

●スタッフ 室長、コーディネーター1名(非常勤)
事務職員2名(非常勤)

聴覚障害学生	公表せず	学部生	名
		院生	名
肢体障害学生	公表せず		
その他	公表せず		

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記		
利用者数	4名	学部生	3名
		院生	1名
ノートテイク数	70名(NT・PC 54名/PCのみ14名)		
サービス提供時間数	利用者が希望するすべての授業		
報酬および経費	760円/時間(共通経費)		
募集方法	入学時に新入生向けに案内を配布。掲示板に募集ポスターを掲示。		
コーディネート方法	障害学生支援室と学生とが連絡調整を担当。		
養成方法	ノートテイク入門講座・スキルアップ講座を実施。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	タブレットPCを導入し、無線でのテイクを実施。		

その他の支援

入学式・卒業式での手話通訳者設置、字幕提示	有り(手話通訳士が対応。字幕は学生による支援)
磁気ループの敷設	なし。
聴力検査、補聴器の調整	言語聴覚士の資格を持つ教員が対応。
FM補聴器の貸出	有り

Check!

聴覚障害教育専攻があるため、専門的知識・技術を持つ学生が多い

トピック

- 最初の支援は昭和51年度入学生から
- SCS研修を利用して、国内の他機関との情報交換を行ってきた。
- 国内外の先進的取り組みを行っている機関を5ヶ国20ヶ所以上訪問し情報収集に努めてきた。FD報告書として発行「高等教育における障害のある学生への支援」(H19,3)など
<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~dohira/FD/>
- 中学や高校に在籍する聴覚障害児への支援について、福岡高等聾学校が2005年より行っている「聴覚障害学生情報サポート講習会」に実施協力している。2010,2011年度は遠隔情報保障(筑波技術大学の協力による)を使用して熊本聾学校と中継を実施。
- ノートテイクを学んだ学生が、小学校や中学校の通常学級で学ぶ難聴児への情報保障にもボランティアで通っていた。
- 日本学生支援機構の「障害学生修学支援ネットワーク」の拠点校にも選ばれており、障害学生支援室が企画し、講習会等も実施している。
- 他大学での研修会開催にも協力している。

サービス向上を目指して

- ・授業担当者による視覚的情報や資料の準備がかなりの程度なされるようになり、以前と比べるとノートテイクの負担も軽減されるようになったが、より理解しやすい提示法や説明を行えるようにFD研修等を実施したい。
- ・支援対象の授業の既履修者、学生の専門に合わせてノートテイクとして授業に配置することで、より容易に内容理解ができるようにしたい。
- ・全学的に取り組めるように、支援組織を充実させたい。
- ・より有効な支援を支援学生、利用学生がともに考えることのできるように、学生対象のスキルアップ講習会、支援室登録学生同士のミーティングを充実させたい。

参考資料

FD報告書(H14, H15, H16, H17, H18, H19, H20)

問い合わせ先

障害学生支援室 TEL 0940-72-6062,
E-mail gaksicho@fukuoka-edu.ac.jp

産業技術学部

National University Corporation
Tsukuba University of Technology
Faculty of Industrial Technology



産業技術学部では、
聴覚に障害のある学生が学んでいます。

「伝わる・わかる・できる」学びの間

聴覚障害者を対象とする高等教育機関として、教育を通して聴覚に障害がありながらも社会の各分野においてリーダーとして貢献できる人材を育成し、障害者の社会的地位を向上させるとともに、技術革新が進む情報社会の中で十分に活躍し、社会全体の環境整備に貢献できる専門職業人を育てていくことを目的としています。これらの目的を達成するため、聴覚障害者の持つ能力・適性が十分に発揮でき、職域の開拓に実績と将来性のある「情報」、「技術」、「環境」及び「デザイン」の領域を中心に、芸術、技術、情報面から、聴覚障害者の教育と研究にアプローチします。

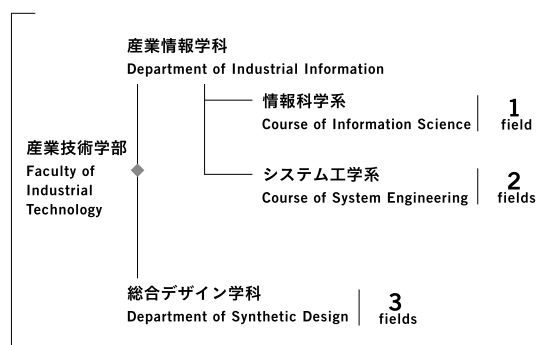
産業技術学部の教育理念

社会が求めている産業技術の高度化と複合化に対応できる専門職業人を養成し、「情報処理」、「ものづくり」、「生活環境創り」を通して聴覚障害者の社会参画・貢献を促進するために、産業技術学部では教養教育系科目を担当する障害者高等教育研究支援センターとの連携を図りながら、次の2つを柱として教育課程を編成しています。

- 1 | 専門知識と技術の習得に必要な専門基礎教育を充実し、確実な専門的・応用的能力及び指導能力の育成を図ります。
- 2 | 幅広い学識を習得させ、情報の高度化や技術革新の進展に柔軟に対応できる基本的素養の育成を図ります。

産業技術学部の構成

産業技術学部は、産業情報学科と総合デザイン学科で構成されます。産業情報学科では、情報科学とシステム工学の分野において、専門的な能力の育成を図り、快適な社会と生活環境の整備に貢献できる人材を育成します。総合デザイン学科では、ユニバーサルデザインやエコロジーデザインなどへも視点を広げ、社会的自立ができる豊かな感性と創造的表現力を持った人材を育成します。



聴覚障害系

障害者高等教育研究支援センター

Research and Support Center
on Higher Education for the Hearing Impaired



円滑な情報アクセスとコミュニケーションを支援

コミュニケーション指導

聴覚管理・補聴相談

残存聴力が低下しないよう、学生の聴覚管理を行っています。補聴器フィッティングに関する相談や、自ら聞こえの程度を把握し補聴器の自己管理ができるよう最新の聴力測定システムを配備した指導プログラムを提供しています。



手話指導

教職員および学生の手話学習支援として、職員や新任教員を対象とした手話研修、入学後間もない時期の学生に対する手話指導を行っています。また、各種情報保障手段の活用等、個別のニーズに応じたアドバイスも行っています。

学内情報支援

CATVシステムによる連絡広報

聴覚障害のある学生のために、ケーブルシステムを用いて学内の各所に設置されたテレビモニタに文字または画像情報を配信し、学内広報・各種ニュースを伝達しています。また、非常時には音や光による警報の他、電光掲示板を用いて文字による案内を表示するシステムを構築しています。



教材作成

字幕入りビデオ教材

聴覚障害学生用に視覚教材を豊富に活用した授業を進めるため、字幕入りビデオ教材を多数作成し、本学聴覚障害系図書館に配架しています。教材作成に用いている字幕挿入システムは、質の高い字幕入りビデオ教材を迅速に作成するために本学で開発されたものです。



就職に関する 支援・指導

学生および卒業生に対して就職試験や面接、職場実習、職場適応に関する指導や支援を行っています。また、企業との連携を深めるための諸活動、卒業生の職場適応に関する相談・支援を実施しています。



聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスを保障する 教育支援ハブの構築

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターは障害者高等教育拠点として、文部科学省の認定を受けています。
これは、障害のある学生に対する高等教育を推進するために本センターが全国的な拠点としての役割を果たし、大学における障害学生支援をバックアップするものです。

※[教育関係共同利用拠点]の認定について
参考Webサイト
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/03/1291858.htm

ぜひ、ご活用
ください！



指導や支援に役立つ教育コンテンツ

■デフ・スタディーズ(ろう者学)

聴覚

ろう・難聴者の様々な生き方や考え、自立に必要な知識などを指導する「ろう者学」の指導カリキュラムおよびコンテンツ(Webサイト)を開発・整備し、全国の大学教職員が活用できるシステムを提供しています



■語学教育・学習

聴覚

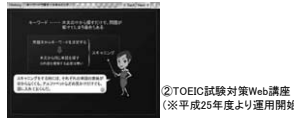
聴覚障害学生がアクセスしやすい学習コンテンツを開発しています

①留学準備Web講座



②TOEIC試験対策Web講座

(※平成25年度より運用開始予定)



③二次元ドットコードを使用したアメリカ手話の動画教材

■スポーツ教育コンテンツ

聴覚

聴覚障害者のスポーツ活動がどのように行われているかを紹介するDVDなどのコンテンツを作成します
(※平成25年度以降作成予定)



情報保障機器貸し出しと技術提供

■文字情報システム

聴覚

開発したシステムを用いてルビ付き字幕を提示する情報保障機器として提供します



すべてのものを聴え
ば、そのような考
え方は自然と矛盾に
落ち込んでいくこ
とです。

■教育支援機器の貸し出し

視覚

多様なニーズに合わせて、ルーペを始めとする教育支援機器を貸し出します(国内最大規模)



各種ご相談への対応

■語学指導に関すること

聴覚

アカデミック・アドバイザーが外国語授業における指導方法や障害特性に応じた学習方法に関する相談に対応します



■授業支援者(パソコンノートテイク)養成に関すること

聴覚

他大学において必要となるパソコンノートテイク養成講座のカリキュラム提供や指導に関する相談に対応します



■体育・スポーツ活動に関すること

聴覚 視覚

聴覚・視覚障害学生の体育・スポーツ指導を行うアダプテッドスポーツコーディネーターを派遣し、障害者スポーツの特長の紹介や指導法に関する講習会を開催します

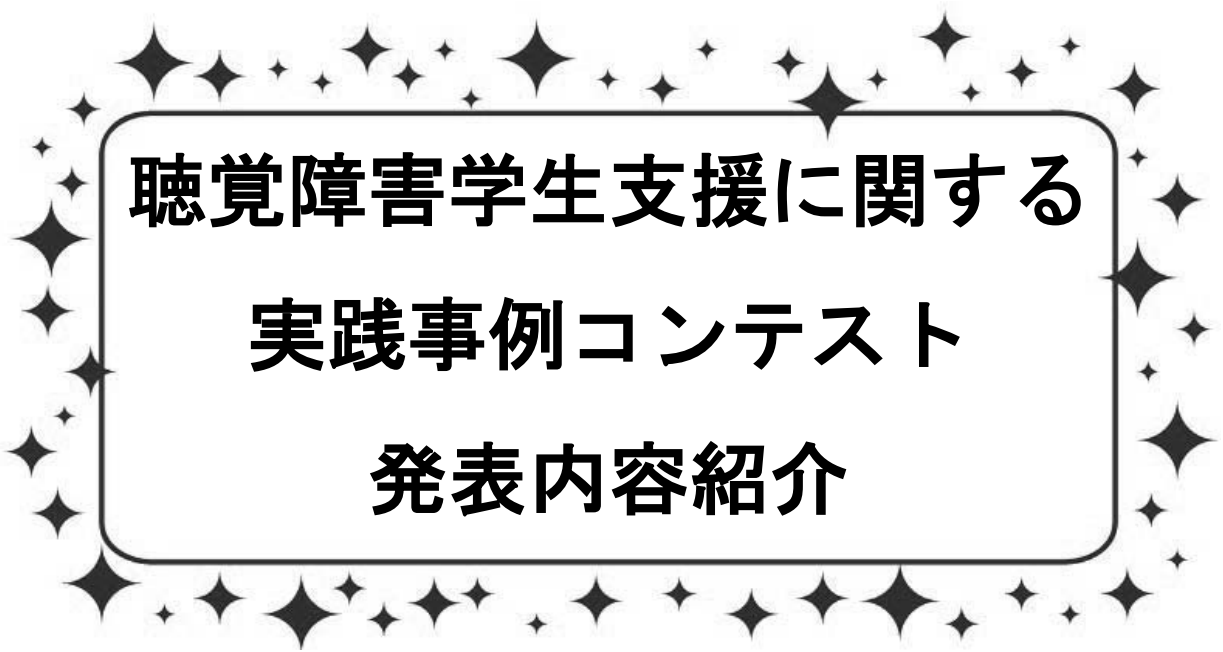


その他、聴覚・視覚障害学生の指導方法や支援に関するご相談も受け付けます

お問い合わせ先・利用申し込み先

筑波技術大学
障害者高等教育研究支援センター
共同利用拠点事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保4-3-15
TEL/FAX: 029-858-9483
E-mail: krk-net@ad.tsukuba-tech.ac.jp
URL: <http://www.a.tsukuba-tech.ac.jp/ce/kyoten/html/>



**聴覚障害学生支援に関する
実践事例コンテスト
発表内容紹介**



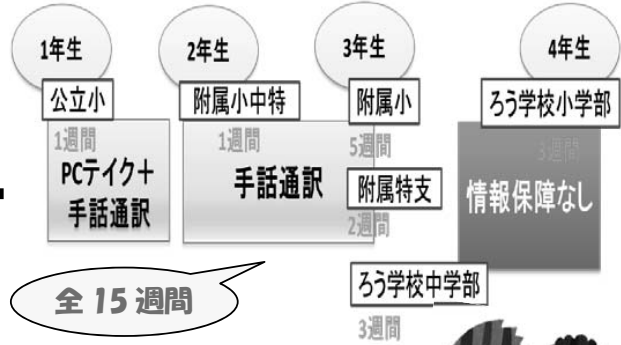
群馬大学 教育実習の情報保障から考える

群馬大学教育学部 教育実習の特徴

必修！群大生全員が附小または附中へ5週間の教育実習



4年次	教育実践 インターンシップ	
3年次	教育実習	
2年次	授業実践基礎学習	
1年次	教育現場体験学習	



事前準備

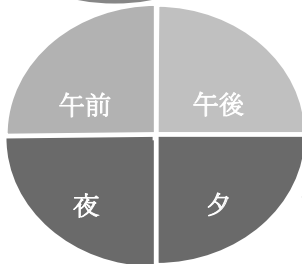
手話通訳者への事前説明会に同席

- ・基本情報を共有
- ・通訳介在場面の希望など確認

実践的な力を身につける！
現場に強くなる！



通訳配置



児童と
直接話したい!!
給食や休み時間以外
全てに手話通訳配置

課題・改善

サポートルーム

通訳者の確保（2カ月前～）→関係団体機関紙に通訳協力のお願いと募集
説明会（職員・実習生→通訳者 情報共有や引き継ぎの確認）→MLや報告書の活用
通訳者、ろう学生、実習校とのやりとりや確認

ろう教生

記録を取りながら通訳を見る→ノートを書く視野に通訳が入るようにする
児童同士の会話の選択方法 →全体へ発言している児童や気になった集団を中心にする
教生同士の連携 →同専攻の学生が同じグループに配置（大学）
子どもとの会話 →児童一人一人にホワイトボードを準備（附小）
毎日、朝の会で手話単語を教える

実習生として

- ・学校経営
- ・教科指導
- ・児童・生徒指導

二面性を持つろう学生の課題



- ・先生、児童・生徒、教生とのコミュニケーション
- ・手話通訳の活用

「ろう」として

一般校実習の意義

聾学校だけでなく、一般校での経験も重ねることができた。聞こえる子どもたちとかわる中で、聞こえないことを伝える、学校経営・教科指導など、基礎的な学習をすることができた。

通訳活用のスキル

以前は、通訳に対して自分の希望を伝えようという意識が薄かった。しかし4年間の実習を通して、相互の情報共有のために、自分に必要な方法を考え、判断し、伝える力が培われた。

問い合わせ先

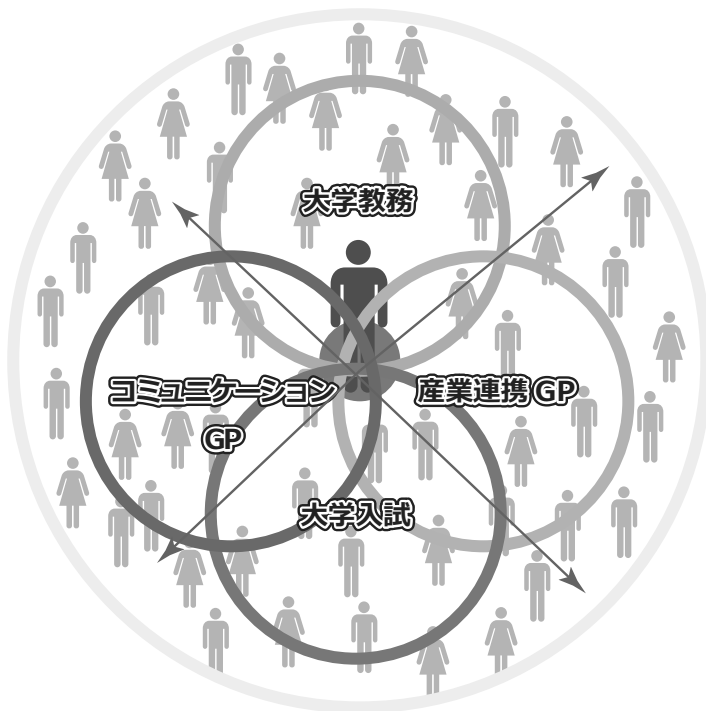
教育学部 4年 山本綾乃
障害学生サポートルーム

連絡先（群馬大学障害学生サポートルーム行）

e-mail : a_dis-support@ml.gunma-u.ac.jp Tel/Fax:027-220-7114

支援から教育改革・入試改革へ

聴覚障害学生支援プロジェクト室からはじまるソーシャルアクション



1. 大学教務

手話による教養大学、授業科目としての「情報保障」、各科目の中のアクティブラーニング

2. 大学入試

面接試験に手話通訳・PCテイクの用意、編入試験の論文を日本手話で出題、一般入試に科目としての「日本手話」を導入

3. コミュニケーションGP

コミュニケーションのバリアフリーを目指して学生が手話やパソコンの腕を上げ、教員の研究とも連携する。検定試験、e-portfolioの活用

4. 産業連携GP

学外の組織・機関・会社との連携、自治体等のボランティアセンター等とタイアップ、近隣のボランティア養成

2013 TOPIX

1. 教育のための支援から支援のための教育へ

情報保障の単位化: 講義、アクティブラーニング



2. 合理的配慮から最高の配慮へ (手話を入試科目に)

聴覚障害者の大学進学率向上に本気で取り組む。高校の塾→聴覚障害者のためのオープンキャンパス→聴覚障害者のための入試→授業の情報保障・手話による講義→就労支援(国家試験対策講座)



宮城教育大学しょうがい学生支援室

学生運営スタッフ
利用学生



前学長

教職に就くことを見据えて全学生に障害に対する基本的姿勢を身につけさせたい！

(2009年のシンポジウムにて)

学内の声

あれ？利用学生の顔と名前が一致しない

2013年は・・・

どんな活動をしているの？

ノートテイクの時いつも新しい紙で何だか申し訳ないなあ



支援学生

情報交換会や練習会を開いても参加者が少なく、いつも同じ・・・



学生運営スタッフ



一般学生



利用学生

聴覚障害学生の在籍数が増加、支援学生の在籍するコース・専攻が多様化！しかし一方で解決できない悩みも・・・

宮城教育大学の特長

ボランティア制・キャンパスが一つのみで集まりやすい
多方面のコース/専攻に支援学生が在籍している・アットホームな雰囲気の大学！

本学の特長をうまく生かせないだろうか？？

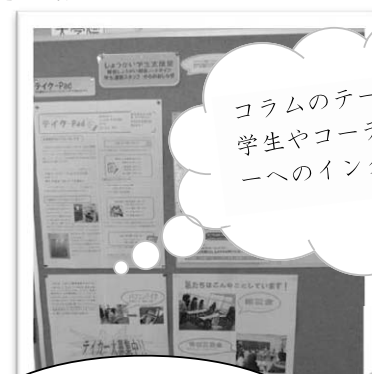
学生運営スタッフの工夫

利用学生主催の懇親会！

掲示板にコーナー設置とコラム



多くの学生が企画に参加し、学生同士で交流する機会ができた！



コラムのテーマは利用学生やコーディネーターへのインタビュー等

学内の多くの人々が目にする場所に設置されています

当初は予想していなかった変化まで・・・！

支援室に興味を持つ教員が増加し、

・教員から裏紙回収の呼びかけや字幕依頼の増加

・直接関わりのない課(学務課、管理棟など)の職員からの協力

集まった裏紙

学生が自ら考え、積極的に企画に取り組むことができた

支援に取り組む姿が多方面に伝わり、教職員も含め大学全体で支援を考える機会が増えた

今後の課題・・・利用学生・支援学生・教職員の求めるニーズの適切な把握方法を定め生かしていくこと

問い合わせ先

宮城教育大学 しょうがい学生支援室

TEL・FAX 022-214-3651 /E-mail Support-Coordinator@ml.miyakyo-u.ac.jp

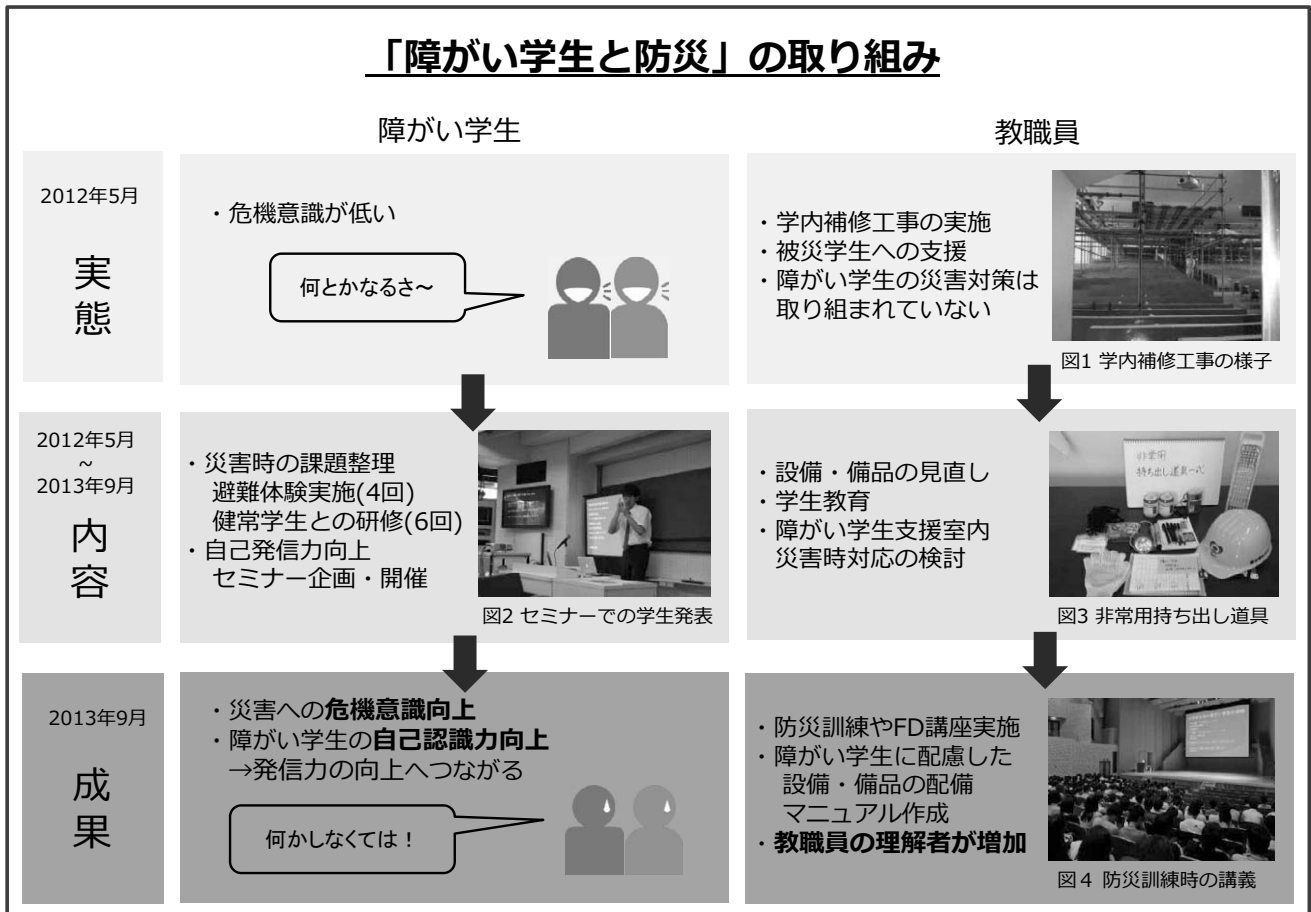
東北福祉大学 障がい学生支援室

2011年3月11日、あの日を忘れない・・・

震度6弱の揺れに襲われ、ライフラインがすべて途切れたあの時、
20名の身体障がい学生（うち聴覚障がい8名）が在籍していました。
奇跡的に20名全員が怪我一つなく震災を乗り越えることができました。
東日本大震災では障がい者の死亡率が高く、避難行動が課題になりました。
現在、聴覚障がい、車いすや人工呼吸器使用の学生が在籍しています。
大震災での経験から、以下のような取り組みを行っています。



「障がい学生と防災」の取り組み



障がい学生の発信で社会が変わる！

障がい学生自身が
周囲に訴える力を持つ

環境を整える

理解者を増やす



お問い合わせ先



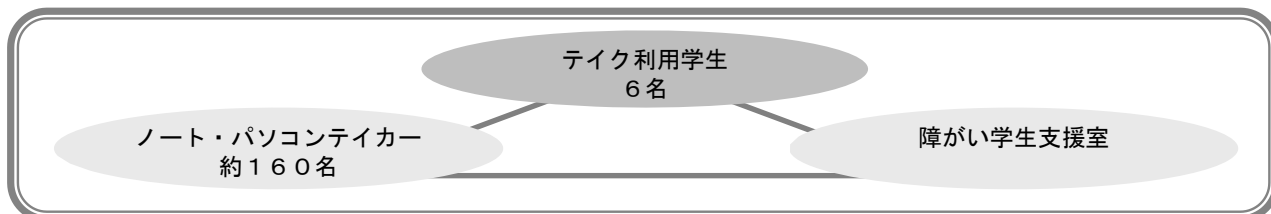
東北福祉大学
障がい学生支援室

宮城県仙台市青葉区国見1-8-1
support@tfu-mail.tfu.ac.jp
TEL：022-301-1291
FAX：022-207-1839



東北福祉大学 障がい学生サポートチームテイク☆テイク

本学にはノートテイク支援を受けている聴覚障がい学生が6名、ノートテイク登録者が約160名います。現在は、平成25年度後期の授業のノートテイク派遣を進めながら、来年に向けて新たなノートテイクを募集するための活動をメインとして、聴覚障がい学生と健聴学生と一緒に活動しています。



スタッフだよ！全員集合！！



困った時はお互い助け合おう！！

新テイク募集

- ・PR 依頼をした講義で10分程度、新テイク募集のPR をさせてもらう。
- ・ビラを配布する。

聴覚障がい学生スタッフと健聴者スタッフがともに学びながら活動に参加しています！

テイク☆テイクスタッフは、テイク利用学生とノートテイクの交流を深めるため、手話教室や交流会などを開催しています！！

手話教室

テイクの「手話を覚えたい」という気持ちに応え企画しました。



交流会

テイク利用学生とテイクが授業以外の場で楽しめる時間を設けました。



テイク利用学生が中心となって活動しています
＼(´▽`)／

●テイク利用学生は・・・

- ・「テイクは私たちのために時間を作ってテイク活動をしている」ということ、意識しながらノートテイクの支援を受けています。

●健聴スタッフは・・・

- ・テイク利用学生の「ノートテイクへの感謝の気持ち」を尊重しています。
- ・「聴覚障がいに限らず、障がい有する人々が社会で健常者と同等に生活していけること」を願っています。

テイクとテイク利用学生が「よりよい関係」を築く努力をしています！

お問い合わせ先

東北福祉大学障がい学生支援室

仙台市青葉区国見1丁目8番1号

E-mail support@tfu -mail.tfu.ac.jp

TEL 022-301-1291

FAX 022-207-1839

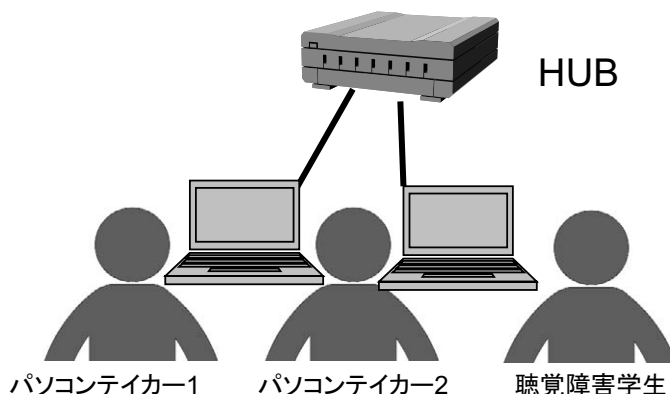
愛知教育大学

遠隔支援によるパソコンテイクの取り組み

愛知教育大学の聴覚障害学生支援団体「てくてく」は遠隔支援システムを使って、このような取り組みを行っています。

従来のパソコンテイク

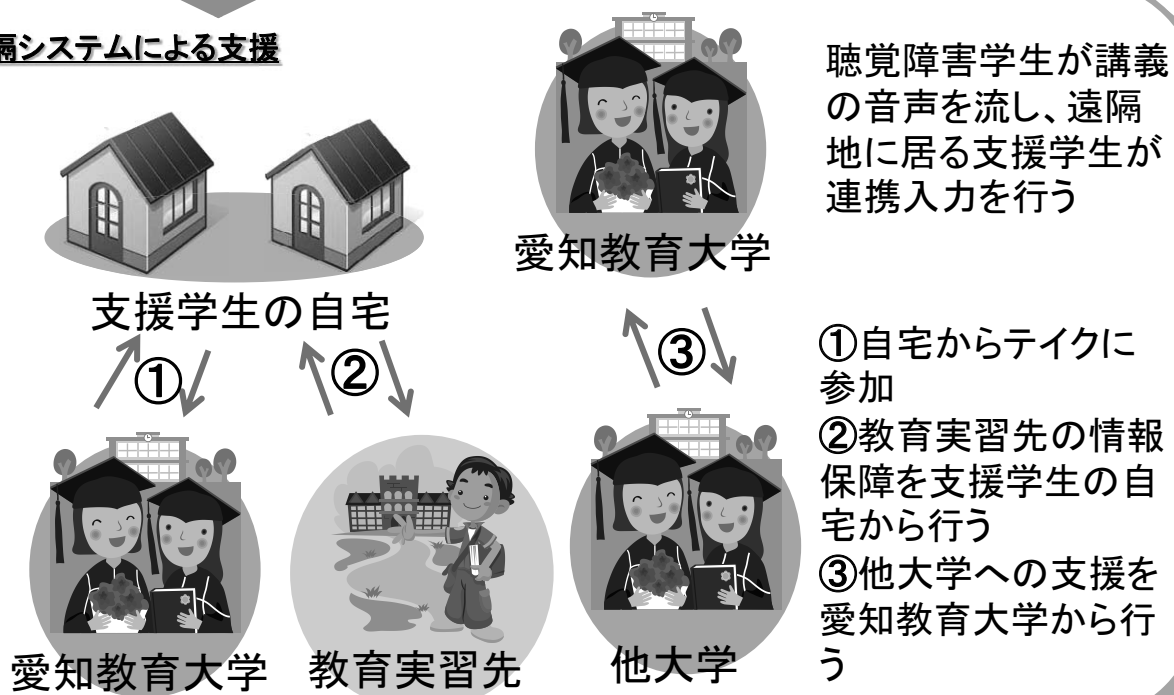
- ・聴覚障害学生と同じ部屋にいないといけない
- ・実習で屋外に行った時にパソコンテイクで情報保障を行うことができない



遠隔システムによる支援

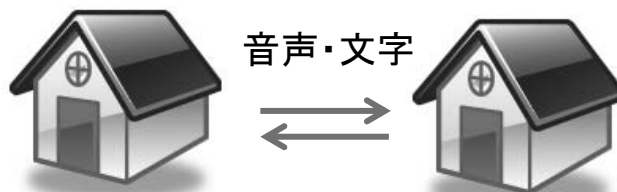
支援学生

聴覚障害学生



遠隔練習会

自宅などからインターネットへ接続し音声を共有し、聞いて連携入力練習をする



問い合わせ先

愛知教育大学 情報保障支援学生団体「てくてく」 代表: 鈴木康太 岩丸雅則

連絡先 (e-mail: tekuteku@t.ics.aichi-edu.ac.jp)

松山大学 障がい学生支援団体 POP



POP 設立 3 年目頑張ってます！



4月 新入生の勧誘！

新入生ガイダンスで、POP の紹介をしました！
チラシも配布しました。その成果もあり、新入生
を **Get** できました 😊



要望書の提出！ 5月

障がい学生支援室に関する要望書を松山大学に
提出しました！

よろしくお願いします。

要望書

8月 オープンキャンパでの支援！

2 人の高校生が松山大学に来ました！
キャンパスの案内をしました。



★ 報告書をもとに現在オープンキャンパスの
マニュアルを作成中です！

POP
Pieces
Of
Puzzle

テレビの取材！ 9月

頑張っている POP の活動がテレ
ビ局に取材されました。😊

松山大学のスターに…？



10月 講演会での PC 関係入力！

初めて講演会で PC 関係入力を行いました。



先輩すごい！！

学長対談！ 10月

松山大学の学園広報誌の「学長対談」で課外活動
をテーマに対談し、その時の様子が掲載されまし
た。

ドキドキ



問い合わせ先

松山大学 障がい学生支援団体 POP 代表 石川美穂

連絡先 matsuyama.u.pop@gmail.com (担当者 鎌田泰地)

ぽぷろぐ in 松山大学 popmatsu-u.jugem.jp



パソコンテイク始めました！



🏠 ゼロからのスタート

本学で本格的な聴覚障害学生支援をするのは初めて

- 専門職大学院→**専門知識**の必要性、情報量の多さ、**双方向授業**
- 国内外の大学を**視察**し、本学の支援体制を模索
- 聴覚障害学生、関係教職員の**ミーティング**を月に1度開催
- 聴覚障害学生の発言を**モニター**に映し出し、双方向授業への参加を保障
- 前期にパソコンテイク**養成講座**を6回開催(述べ51名の参加者)
- 当初はプロの力を借り、徐々に学生テイク中心の支援体制に移行



🏠 パソコンテイク始動

学生テイクだけでのテイクを始めたものの、当初は分からないことだらけ…

- 「先生の話の細かい**ニュアンス**や**強調部分**の伝え方はどうテイクしたらよいか」
- 「図の説明には**指示語**が多く出てくるためうまくテイクできない」
- 「固有名詞の**漢字変換**がうまくいかずに戸惑ってしまう」
- 「先生から質問されていることをすぐに利用者に伝えられない」
- 「ペアテイクの際**一文交代**だと相手のフォローが出来にくい」
- 「テイク一両者が同じ内容をテイクしてしまう」
- 「先生の話すペースが速くなると、メインテイクが**要約**したのか**テイク漏れ**なのかわかりにくいためフォローが難しい」
- 「他の学生の発言時、声小さくテイクできないことが多い」
- 「利用者の発言が書かれたモニターを先生が**黙読**すると周りの学生はその内容がまったく分からない」 など、戸惑うことの連続でした。



🏠 「講義連絡ノート」で情報共有！

そこで、講義で気が付いたことをメーリングリストで共有し、知識や技能を蓄積していきましました！

- 「聴覚障害学生の発言は**モニター**に映し出しそれを先生に読み上げてもらってはどうか」
- 「強調して話された部分は**カギカッコ**を使うとよいのでは」
- 「**単語リスト**を作って変換の練習をするとうい予習になる」
- 「変換しにくい漢字は長く打って変換し**一文字消す**方法がある」
- 「図のテイクは、同じ図をサブテイクが描き写し独自に矢印等に番号を振った上でテイクをすると分かりやすい」
- 「5分交代の時は**消しゴムの受け渡し**で担当を確認している」
- 「両者が同じ内容をテイクしてしまった時は**どちらが消すか**決めておくスムーズ」
- 「利用者に先生が質問する時は**「質問です**」と書かれたカードを提示する」
- 「学生の回答を無理にテイクするより**先生の解説**をしっかりテイクすべし」
- 「その場の**雰囲気**を同じように体験できるようなテイクを目指した」
- 「前日に**早く寝ること**や**爪の長さ**を整えることが意外に大事」 など多くの提案がなされ一つ一つ改善しながら支援体制を積み上げていきました。



🏠 障害学生 × ティカー × 教職員 = 振り返りの会

前期終了後、関係者が**一堂に会**する場を設け、今後のよりよいテイクに向けて話し合いを行いました。ティカーと教員の意味疎通の仕組みを強化していくことが確認されました。学生ティカーへのアンケートでは「自分の授業でも**ノートを取るのが上手くなった**」「先生方が**パワーポイント**を導入して下さり、**わかりやすい授業が増えた**」との意見もいただきました。専門知識を持つ学生ティカーをどう確保していくかが今後の課題です。

…その後、現任者ティカーのための**「スキルアップ講座**」、ティカー同士の**懇親会**、聴覚障害学生による**「しゅわのかい**」が開催され、聴覚障害学生支援体制が着々と構築されてきています。



お問い合わせ先：一橋大学 障害学生支援室
 〒186-8601 東京都国立市中2-1
 TEL&FAX: 042-580-8927 mail: stu-ss.g@dm.hit-u.ac.jp

筑波大学 原島研

突然ですが……聴覚障害学生の皆さん！
ディスカッションに参加できていますか？

できてないかも…



聴覚障害学生：ディスカッションは話し手が変わったり、話してる人が重なったり、スピード感があって追いつけない…なかなか発言できません。

支援学生：支援する学生だって大変ですよ。ましてゼミなんかだと専門性も高かったりして、専攻が違ったりするとなかなか苦労します。

その他の学生：意外かもしれませんが、僕も気をつけてますよ。支援の邪魔になる発言をしてないかなとか。でも、自分の勉強もあるし…

できてる！

About 筑波大学

私たちの大学には約20名の聴覚障害学生が様々な専攻に在籍しています。

支援学生は100名ほどいて、PC通訳・手書き要約筆記・手話通訳等を実施しています。

というわけで、聴覚障害学生をはじめ、参加者全員にとって参加しやすいディスカッションの形を探しもとめています。

- 具体的には**
- きこえる・きこえない、手話ができる・できない、様々な参加者の個性を受け入れ、かつ聴覚障害学生の内容理解を助け、みんなが積極的に参加できる環境をつくる。
 - 支援学生やきこえる学生の負担を軽減し、ディスカッションの質を高める。

司会者の指名

- ☺ディスカッションにゆったりした間を作る
 - ↳ 情報支援がしやすい
 - ↳ 内容の理解がしやすい
- ☺聴覚障害学生が司会をする
 - ↳ 自分のペースにあわせて進められる
 - ↳ エンパワメントも！

発言者がボールを持つ

- ☺司会者がボールを管理する
- ☺ボールを持っている人しか話せないルール
 - ↳ 話者が一人になる
 - ↳ 話し手を見つけやすい
 - ↳ 情報支援がしやすい
 - ↳ 読話しやすい



グループウェア（サイボウズlive）の活用

- ☺事前に発表資料をネット上で共有する
 - ↳ 内容や用語等を活字で押さえておける
 - ↳ 予習によるディスカッションの深化
- ☺終了後に発表者がまとめを載せる
 - ↳ 発表内容の確認・補足
 - ↳ 間違った理解の訂正

全員の手が届く位置にPCを設置

- ☺情報支援学生以外もテイクに参加する
 - ↳ 専門的な内容・用語の補足
 - ↳ 話者も画面を見て誤りを訂正

タブレットPCを持って話す

- ☺話者とPC通訳が同時に見える
 - ↳ 参加感を高める



お問い合わせ、ディスカッションのコツ等の、情報提供は……
筑波大学 人間総合科学研究科 障害科学専攻 田中佑一郎
e-mail : s1321360@u.tsukuba.ac.jp





リモさぼ!!
~遠くから見守り隊~



教育実習の新しい支援方法構築を目指して
未来を担う1回生中心・遠隔支援チーム発足
1ヶ月間の教育実習で、情報保障を成功

「気兼ねなく実習支援をうけられて、
実習がよりやりやすくなった！」
(利用学生の声)

模擬授業!
~lesson by students~



学生自らが授業を行う

↓
授業者の練習に
情報保障の練習や教材に
遠隔支援などの検証に

「発言が瞬時に文字に変換されて
授業の流れがつかみやすかった！」
(利用学生の声)

共育

合宿でミーティング

夏に研修合宿を行う！
夜と朝の2回のミーティングを行う
利用学生⇔協力学生の相互理解深まる

「自分の気持ちをみんなに
伝えられたことが良かった。」
(利用学生の声)

しゅわんだふる!
~手話(しゅわ)っていく、共に育ってく~



検定実施で技術向上へ
動画配信で復習できる教材を
みんなと手話りたい。

「みんなともっとしゃべりたい！」
(利用学生の声)

Typing Contest!!



学祭でタイカーを勧誘
タイピング勝負で学生と交流
新歓祭では4人獲得!



札幌学院大学

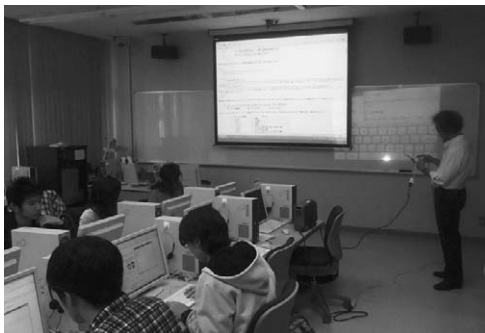
音声認識ソフトを用いたノートテイク代替支援 - 比較実験報告 -

目的:

ノートテイクによる情報保障の代替支援として音声認識ソフトを導入する際の課題を考察する。

報告内容:

デバイスやアプリケーションソフトが異なる環境における、音声認識ソフトの性能、デバイスの操作性、誤変換の修正法、リアルタイム性等を比較実験した結果を示す。

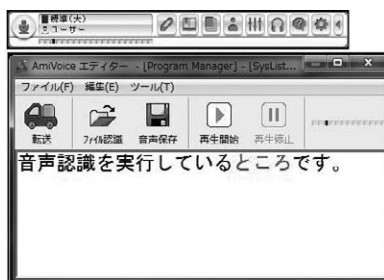


講義時の説明の様子(タブレット型端末使用時)

比較実験:

機器とソフトウェアの組合せは3種類。認識用例題は、講義中の口頭説明を使用。文字数は1256文字。

- ①装置1: スマートフォン+音声認識ソフト(DD)
 - ②装置2: タブレット型端末+音声認識ソフト(DD)
 - ③装置3: PC+音声認識ソフト A(AV)
- (DD:Dragon Dictation, AV:Ami Voice)



AmiVoice の画面

実験結果:

誤変換数

	1回目	2回目	3回目	平均
装置1	33	30	22	28.3
装置2	23	39	30	30.7
装置3	22	23	19	21.3

変換時間(訂正なし)

	1回目	2回目	3回目
装置1	6分58秒	6分39秒	6分32秒
装置2	8分49秒	6分29秒	6分21秒
装置3	6分19秒	5分50秒	5分45秒

変換時間(訂正あり)

装置1	13分45秒
装置2	14分59秒
装置3	12分29秒

特徴的な誤変換の例

装置1	先頭→戦闘(3),3つの→光の(7),例題→0代(3),値→体(3),青だけ→青竹(3),縦→館(2),表→氷(3),表が→評価(2)
装置2	値→体(5),3つの→光の(3),表が→評価(4),青だけ→青竹(2),縦→館(2),先頭→戦闘(2),例題→0代(2),FF→てふてふ(2)
装置3	配色→退職(3),会食(2),対処,2つ目→た爪(2)

(注:括弧内は発生件数)

考察・課題点:

- ①誤変換数→同じ変換パターンの繰り返しは誤変換数の増加に影響している可能性あり。
- ②話者への依存性→未検証(今回は単一話者による)
- ③変換時間→変換までの待ち時間の差は感じられない。ネット接続が必要な場合には応答速度が影響する。
- ④装置1、装置2においてタップ操作を介することの影響→講義のタイプによっては許容範囲内(例:ゼミ内での意見交換など)。連続に変換される装置3が有利。
- ⑤誤変換訂正の手間→いずれの装置でも同様の操作(訂正箇所の確認、訂正箇所へのカーソル移動、キーによる修正入力)を行う必要がある。
- ⑥誤変換数を減らす工夫→ソフトウェアのチューニングと発話の工夫を行う。

結論:

①実習など口頭説明の時間が比較的短い講義における補助的な手段として、音声認識ソフトによってノートテイクの代替支援を行うことは可能と考えられる。

②教室外での学生の個別の修学相談等において、担当教職員に手話のスキルがなくても発話を文字情報として伝達できるので、より正確な意思疎通のために活用できる可能性がある。

早稲田大学 障がい学生支援室

Disabled Student Services Office, WASEDA University

学生主体で
「障がい学生・支援学生
の相互理解促進の為の
取り組み（仮）」活動中！

【障がい学生支援室】

利用学生
支援者
コーディネーター（職員）

【交流会】

- ★学内交流会
より良い支援を目指して
意見交換
- ★他大学交流
2012年度からは
筑波大学と交流会も実施！

【研修】

- ★ノートテイク講座、
パソコン通訳講座を
定期＋随時開催
- ★希望に合わせて
随時研修会開催

【情報発信】

- ★ホームページの充実
- ★Facebook、Twitter、
Youtubeチャンネルで
リアルタイムな情報を発信
- ★全学オープン科目
「障がいの理解と支援」運営

【授業支援】

- ★ノートテイク・パソコン通訳
(T-TAC Captionの活用)
記録・手話通訳
- ★文字起こし・字幕挿入
(字幕挿入システムCCES)
- ★利用学生の在籍学部・研究科
での支援者募集
- ★英語による講義にも対応

早稲田大学 障がい学生支援室

TEL: 03-5286-3747 FAX: 03-5286-0642

Email: shienshitsu@list.waseda.jp URL: <http://www.waseda.jp/student/shienshitsu/>

Twitter アカウント: @wasedau_dss Facebook ページ: <http://www.facebook.com/WasedaU.DSSO>



立教大学 しょうがい学生支援室講演会

★しょうがいの有無に関係なく学生が考え、創り上げる講演会★

しょうがいがあり社会で活躍しているゲストに、学生生活・キャリア・留学など、自分の経験や生き方・考え方を自分の言葉で語っていただく講演会です。準備段階から当日に向けて、情報保障や講演方法についても細かく、積極的に講師の方とやりとりをしています。今回は、第4回講演会について発表します。

第1回 宮川豊史氏（視覚しょうがい）/第2回 日下部隆則氏（聴覚しょうがい）/第3回 稲原美苗氏（脳性まひ・構音しょうがい）

しょうがいの有無に関係なく
役割分担をして、
積極的に意見を出し合う

様々なしょうがいに
対応するサポート

しょうがいの有無に関わらず
「TEAM 立教」
で運営・サポート

2つのキャンパスの
学生が協力して運営



2013年7月6日 第4回 中村 周平氏（頸髄損傷）

「自分の意志で、動き出す。-頸髄損傷の僕の大学生活とキャリアデザイン-」

当日は、全体統括、司会、手話通訳、PC テイク、移動サポート、受付、写真撮影、交流会の8グループによって運営しました。



■PC テイク
仲間とのタイピングの仕方が違うことに気づく機会になった。

■手話通訳
聞いた内容を瞬時に手話で通訳するというのは、とても難しかった。

■講演会後の交流会
初対面の学生同士でも、楽しめる仕掛けづくりをした。

■全体統括
8つのグループがある中で、全体をまとめるためにどうすればいいのか、試行錯誤した。

■司会
全体の流れを意識してスムーズにいくよう努めた。

■移動サポート
初めての方にも安心していただける案内・誘導を徹底した。

■受付
学外の方、しょうがいがある方…さまざまな方とコミュニケーションが取れた。

■問い合わせ先

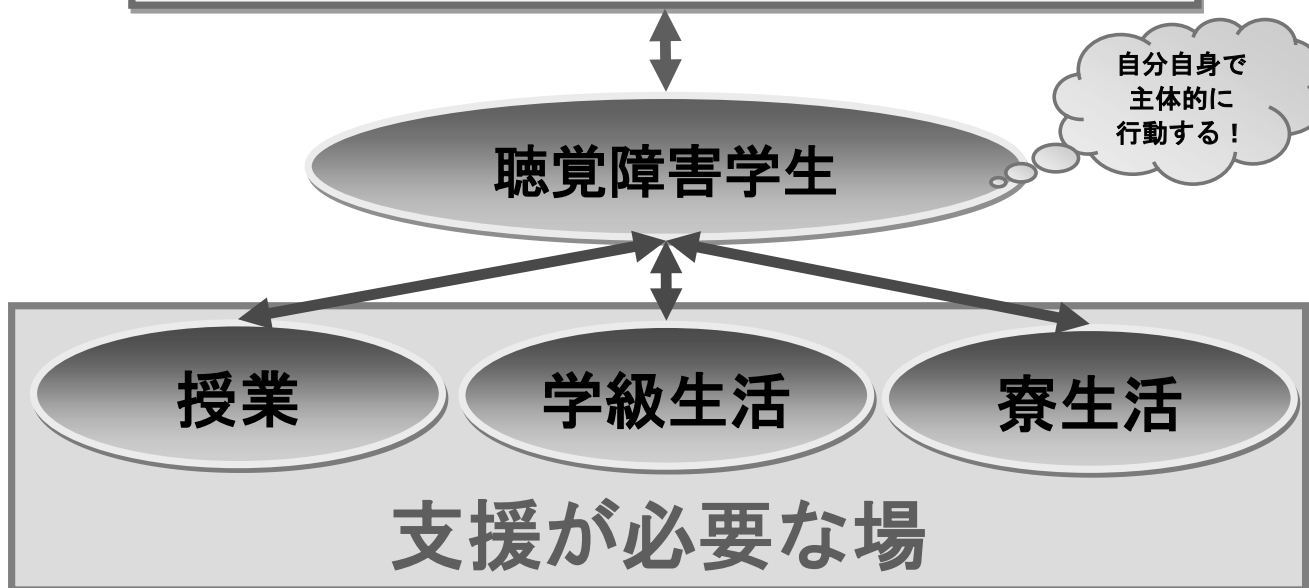
立教大学しょうがい学生支援室

E-mail: sien@rikkyo.ac.jp (池袋・新座共通)

Tel: 03-3985-4818 (池袋)・048-471-7072 (新座)

http://www.rikkyo.ac.jp/support/campuslife/backup/barrier_free/

支援（学生相談室によるコーディネート）



1 学校の支援体制

- 1.1 学生相談室がコーディネート
- 1.2 校長中心の全学体制で実施
- 1.3 保護者・医療機関との連携の重視
- 1.4 本人の主体的関わり・自立支援を重視

2 支援の概要

- 2.1 支援体制の構築：入学時に学校に相談して、誰がどのように支援するのかを決めた。
- 2.2 周囲の学生への理解の促進：最初の寮生集会で学校が人工内耳について説明した。クラスでは自己紹介の中で自分から説明し、理解を求めた。
- 2.3 情報保障（座席配慮・FMシステム整備）
- 2.4 学生寮での支援：（非常時対応）夜間、人工内耳の外部装置を外している間に非常放送が流れた場合、隣の部屋の学生が知らせる体制を作った。

3 学生の主体的なかかわりについて

- 3.1 クラスの学生へのカミングアウト
 - ①座席について、周囲の学生が自発的に配慮してくれる。
 - ②聞き取れなかった授業内容を周囲の人から遠慮なく教えてもらえる。
- 3.2 ピアサポーターを自分で選び・依頼する
信頼できる寮生を選び、学生寮で災害時の時に支援してもらえるよう依頼する。
- 3.3 指導寮生・指導寮生長の仕事について
聴覚障害により指導寮生（長）の活動が困難な部分は、他の指導寮生または他寮生から補助してもらう。

4 今後の課題

- 4.1 災害等非常時の情報保障
- 4.2 海外研修旅行（3年）
- 4.3 インターシップ（4年）
- 4.4 進路選択（就職活動・大学編入）



問い合わせ先

国立沖縄工業高等専門学校学生相談室 〒905-2192 沖縄県名護市辺野古 905

千葉大学ノートテイク会

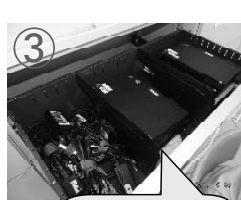
活動内容

- ・練習会(週に1回、ノートテイクの練習)
- ・研修会(情報保障や機材について)
- ・他団体のイベント参加
- ・入学式・卒業式でノートテイク
(大スクリーンに字幕を表示)

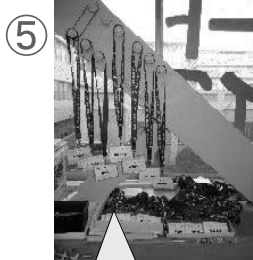
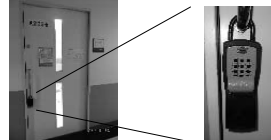
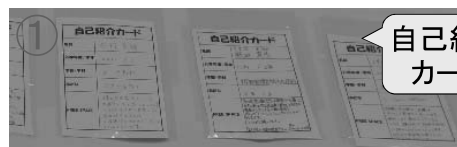
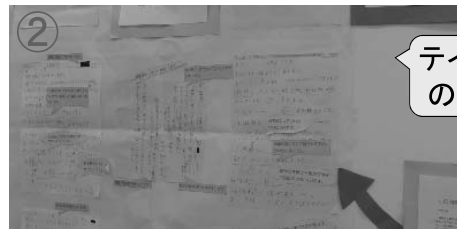
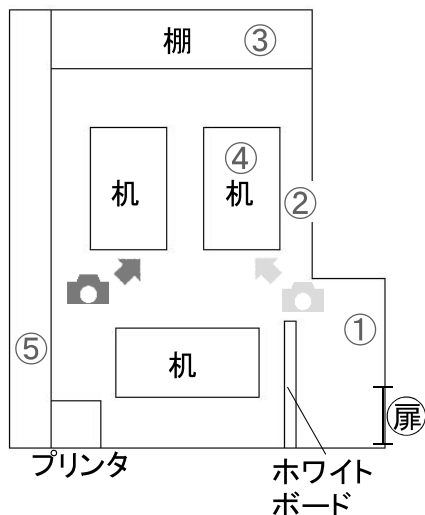
	H24年度 前期	H24年度 後期	H25年度 前期	H25年度 後期
利用学生	1人	2人	1人	1人
派遣コマ数/週	4コマ	10コマ	9コマ	7コマ
登録支援学生	50人	50人	45人	45人

「会の部屋」

- ・話し合い
- ・NT練習
- ・休憩
(ポット・冷蔵庫完備)



充電中...



名札(グッズ紹介)

支援学生が受講生
に間違われる

オリジナル名札
作成!

解決!



← 千葉大学ノートテイク会
オリジナルキャラクター

現状・課題

- ・部屋の存在→利用学生・支援学生同士の交流
- ・快適な環境整備→モチベーション向上
- ・入りやすい雰囲気づくり



問い合わせ先

千葉大学ノートテイク会 (info@ntkai.skr.jp)

代表: 伊藤久美子, 副代表: 井上あずさ, 熊田真弓



大阪府立大学

障がい学生支援センター

- ・相談対応(手帳の有無問わず)
- ・支援のコーディネート
- ・全学の教員等で構成する「同センター運営委員会」開催
- ・“支え合い”を広めるための学生組織による自主活動

授業支援

- ・ノートテイク
- ・移動介助(学内)
- ・先生への配慮事項伝達
- ・学生サポーターの養成

施設整備

(バリアフリー化)

- ・段差解消
- ・エレベーター設置
- ・多機能トイレ設置

入試

- ・受験上の配慮
- ・障がい者特別選抜
- ・入学前相談

社会へ...!!

就職支援

- ・障がい者雇用の情報提供
- ・面接練習

災害時対応

- ・緊急時を想定した訓練
- ・避難器具の設置

理解・啓発

- ・教養科目開講「障害者と心理」「バリアフリー論」

問い合わせ先

障がい学生支援センター(学生センター 学生課 学生サポートグループ内) 担当: 松居

TEL: 072-254-8390 e-mail: cym09253@ao.osakafu-u.ac.jp

日本福祉大学 障害学生支援センター

発表内容はアフタヌーンセッション会場にて
ご覧ください。

問い合わせ先
日本福祉大学 障害学生支援センター
E-mail support-c@ml.n-fukushi.ac.jp

東海大学 外国語教育センター

発表内容はアフタヌーンセッション会場にて
ご覧ください。

問い合わせ先
東海大学 外国語教育センター 田頭未希
E-mail t-miki@tokai-u.jp

第9回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

発行日：2013年12月8日

発行：第9回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム実行委員会

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保4-3-15

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター

※本事業は、筑波技術大学「聴覚障害学生支援・大学間
コラボレーションスキーム事業」の活動の一部です。



デザイン：松浦友樹（筑波技術大学産業技術学部総合デザイン学科 学生）

片岸修斗（筑波技術大学産業技術学部総合デザイン学科 学生）



PEPNet-Japan